

いわゆる「年収の壁」に関する都民意識調査
報告書 〈概要版〉

令和6年3月

東京都産業労働局

いわゆる「年収の壁」に関する都民意識調査
報告書 〈概要版〉

令和6年3月

東京都産業労働局

1. 調査実施の概要

1-1 調査背景

東京都（以下、都という）の目指す女性活躍の推進に向けては、特にパートタイム労働者として働く多くの女性が、いわゆる「年取の壁」を意識し就業調整を行う傾向にあることが課題となっている。少子高齢化の進展等による人手不足への対応も求められる中、働き手の希望に応じた適切な就業時間の確保に向けて、労働時間抑制の壁となっている事項について実態を把握し、対応を進めることが必要となっている。

本調査では、「年取の壁」についての現状の都民の意識の度合いや、就業調整等の行動にどの程度影響を与えているか等の実態の調査を行った。

1-2 調査概要

(1) 調査期間

令和5年11月20日(月)～令和5年12月11日(月)までの22日間

(2) 調査対象

女性パートタイム労働者（既婚、都内在勤）

(3) 調査方法

WEB アンケート調査

(4) 調査項目

対象者の属性

パート勤務状況

年取の壁についての意識・職業調整等

(5) 調査実施機関

株式会社 ナビット

1-3 アンケート実施結果

(1) アンケート回答数

回答数 1,194 件（回収率 61.6%）

(2) 調査結果の見方

調査結果の数値は、回答率（%）または回答数で表示している。回答率（%）の母数は、その質問項目に該当する回答者の総数である。

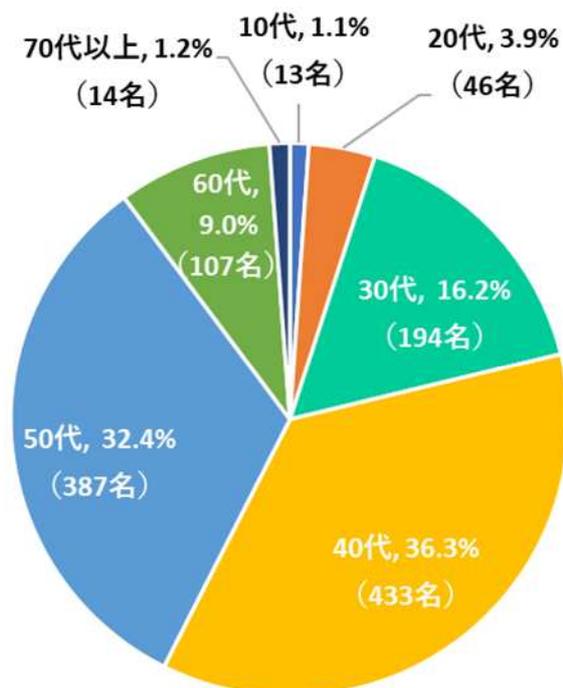
原則として、各設問のグラフは選択肢別の回答割合を記載し、円グラフの場合は選択肢、回答率、回答者の実数を記載している。

回答率（%）については、少数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。このため、その合計数値は必ずしも100%とはならない場合がある。

2. 調査結果

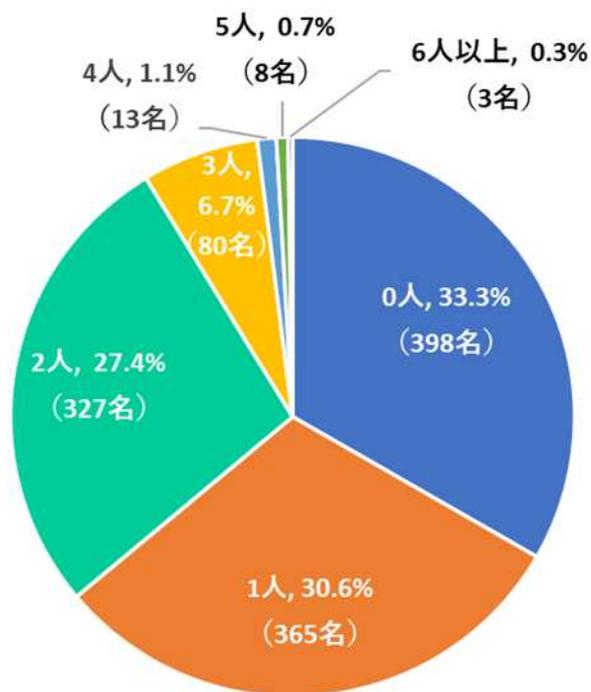
(1) 回答結果

Q1：ご自身の年代を回答してください。(回答数：1,194)



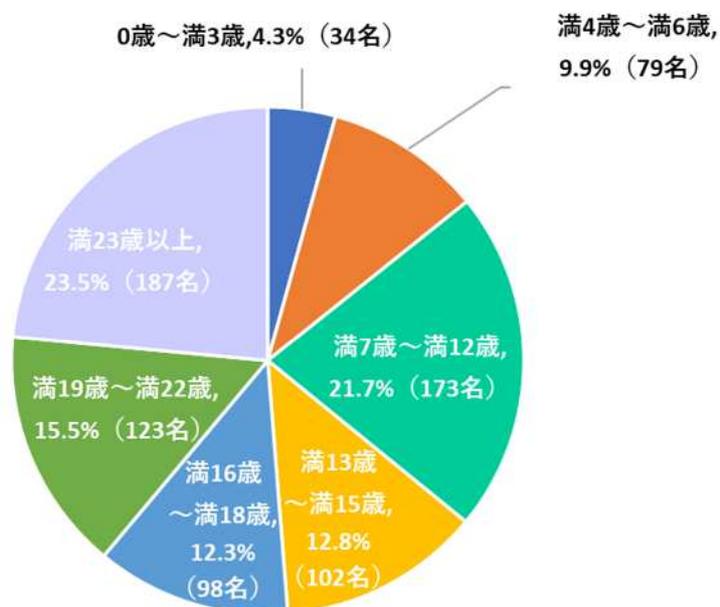
回答者の年代で見ると、最も多かったのは「40代」で36.3%の回答となった。次に多いのは「50代」の32.4%、「30代」が16.2%となり、40代・50代の回答が多い結果となっている。

Q2：お子様の人数に当てはまるものは何ですか？（回答数：1,194）



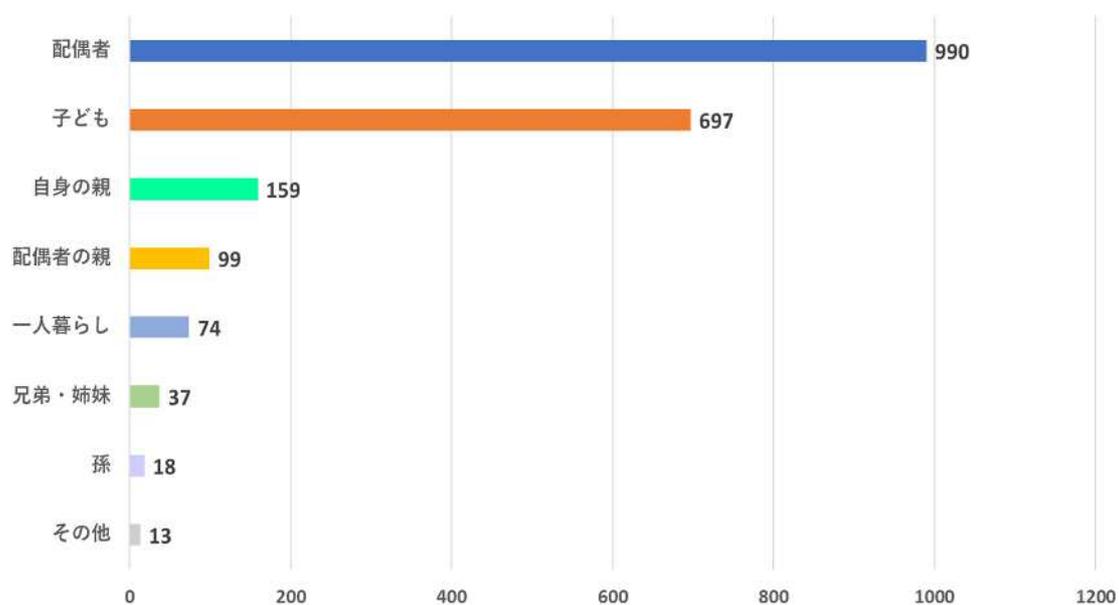
子どもの人数の中でみると、「0人」（子どもがいない）の回答が最も多く33.3%、次いで「1人」が30.6%、「2人」が27.4%となっており、回答者の約6割が1～2人の子どもがいる結果となっている。3人以上子どもがいる家庭は全体の10%以下となっている。

Q3：一番下のお子様の年齢に当てはまるのは何ですか？（回答数：796）



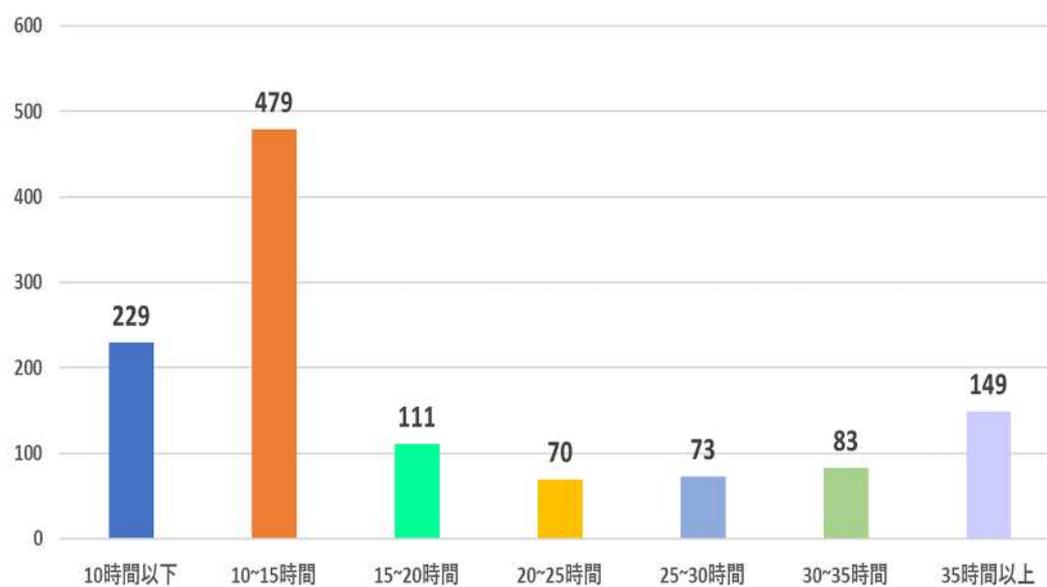
子どもがいると回答した796名のうち、一番下の子どもの年齢については、18歳未満の回答は6割以上となっている。18歳未満では「満7歳～満12歳」の回答が最も多く21.7%となっている。

Q4：現在同居している方で当てはまるのは誰ですか？（複数回答可）（回答数：1,194）



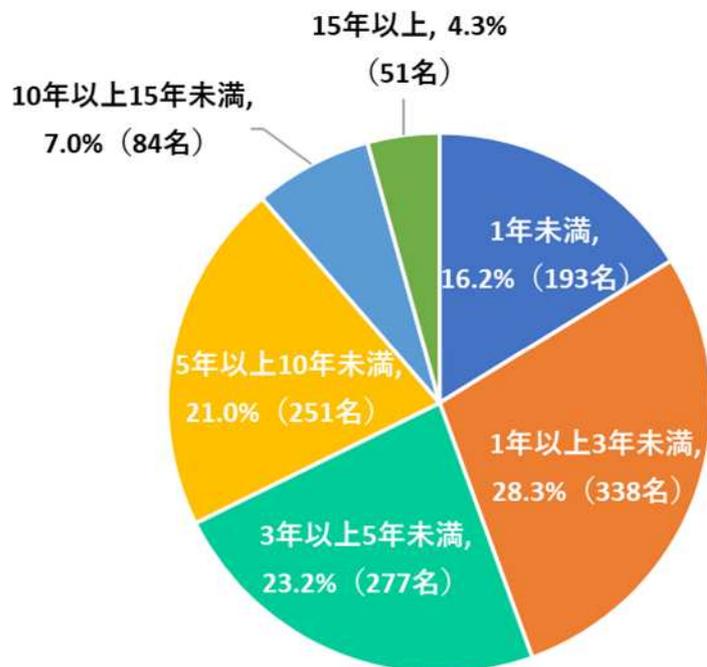
同居する家族については、「配偶者」が最も多く 990 名となっており、次に多い回答だったのは、「子ども」697 名であった。また、「自身の親」159 名、「配偶者の親」99 名となっており、親と同居している人は全体の約 2 割となっている。

Q5：ご自身の現在の週の勤務時間はどのくらいですか？（回答数：1,194）



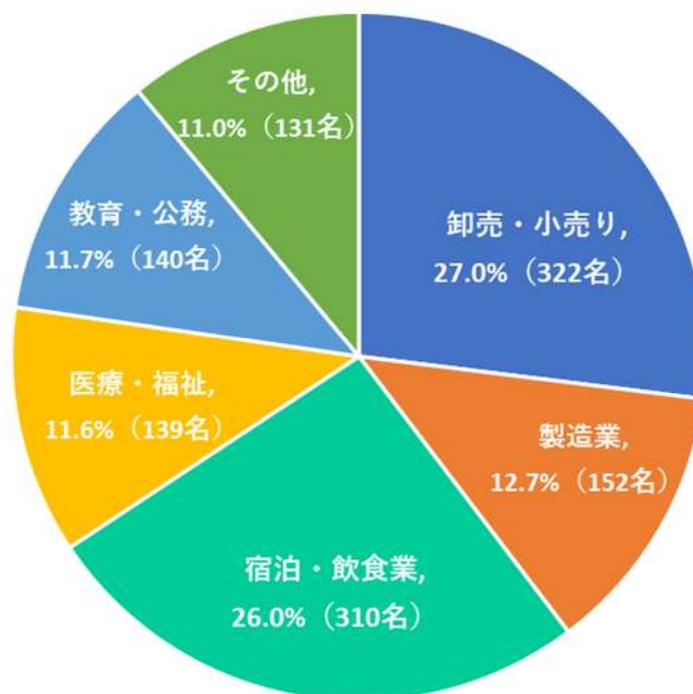
週の勤務時間については、「10～15 時間」が最も多く 479 名となっており、次いで、「10 時間以下」が 229 名となっている。また、「35 時間以上」と回答した方は 149 名であり、全体の 1 割強となっている。

Q6：パートタイムで働いている年数を教えてください。(回答数：1,194)



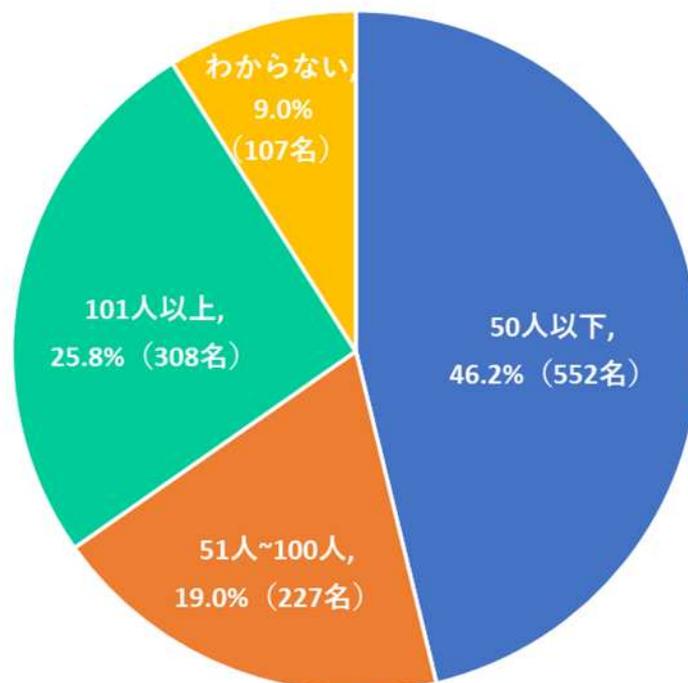
パートタイムで働いている年数については、「1年以上3年未満」が最も多く28.3%、次いで、「3年以上5年未満」23.2%、「5年以上10年未満」21.0%となっており、5年未満が全体の約7割という結果になっている。

Q7：ご自身の現在の業種を教えてください。(回答数：1,194)



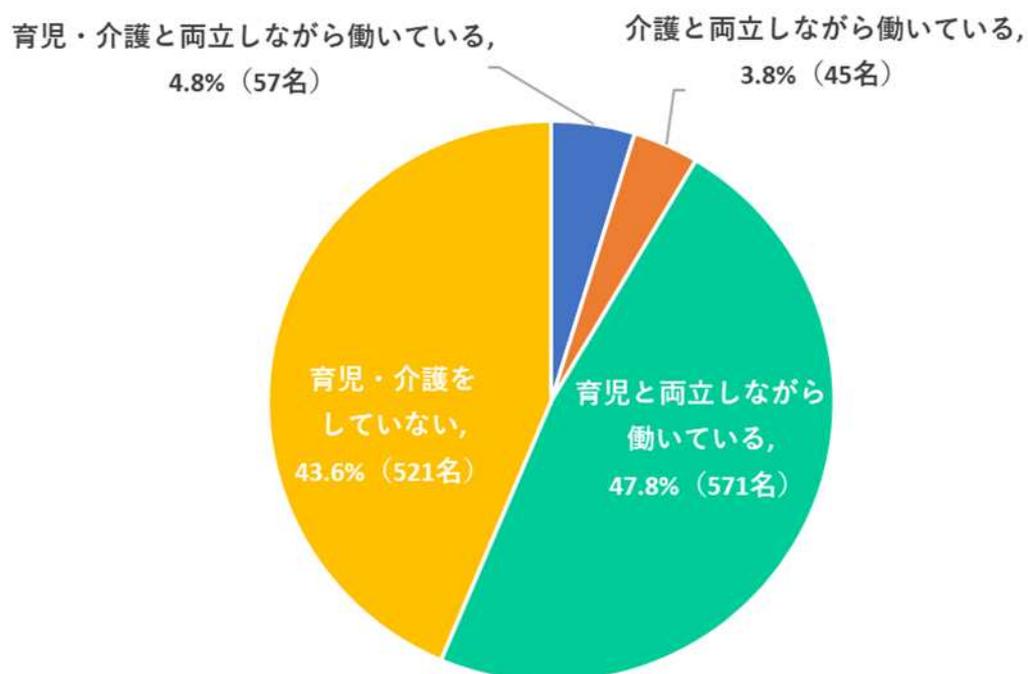
業種について、最も多い回答数となっているのは、「卸売・小売り」27.0%、次いで「宿泊・飲食業」26.0%となり、ほかの業種と比べて高い結果となった。なお、その他の業種については、大きな差は見られなかった。

Q8：勤務先の企業規模を教えてください。(回答数：1,194)



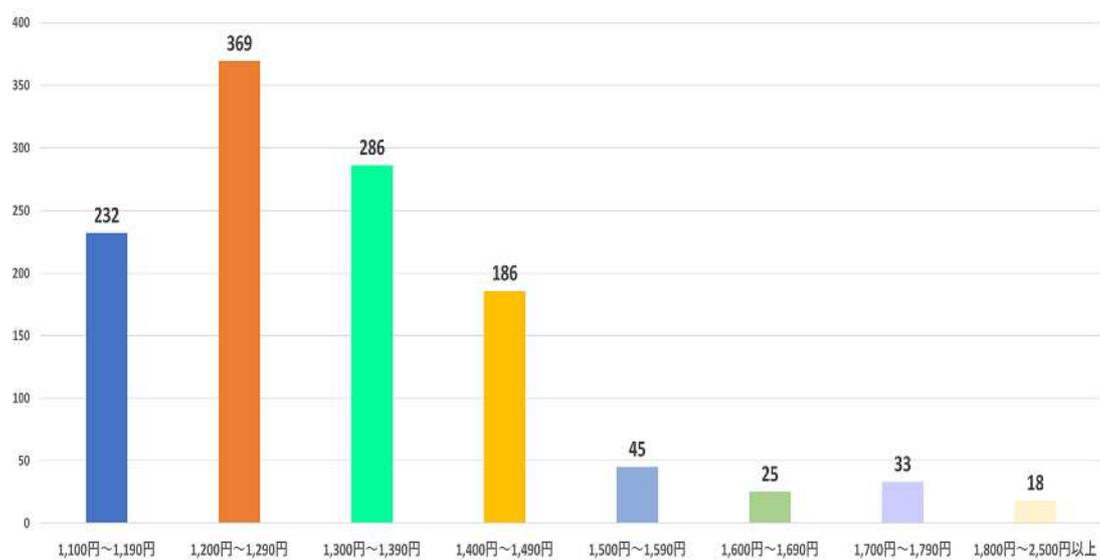
勤務先の企業規模については、最も多い回答は、「50人以下」46.2%となっており、約半数を占める結果となった。次いで多いのが「101人以上」25.8%、「51人~100人」19.0%となっている。

Q9：育児・介護と両立しながら働いていますか？（回答数：1,194）



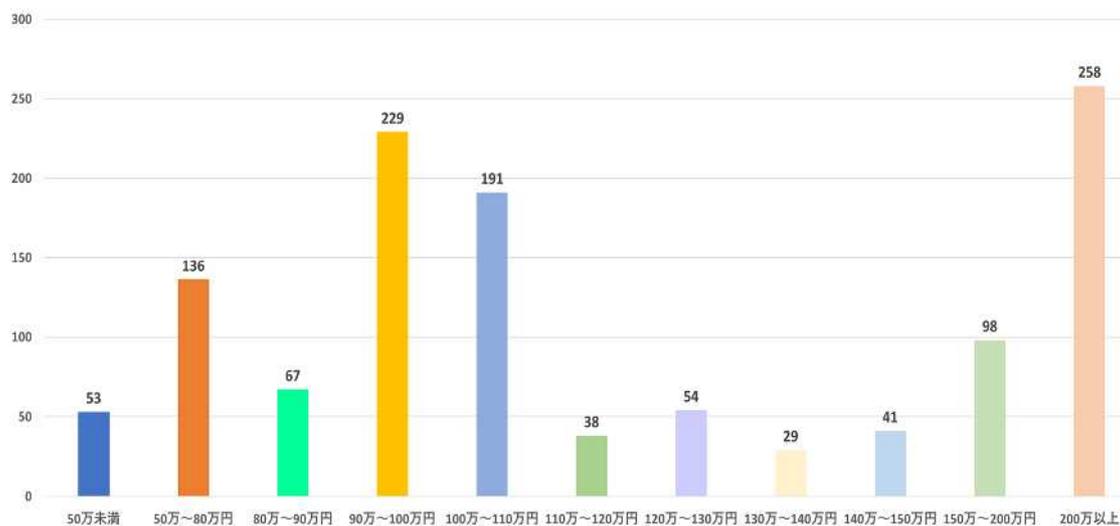
育児・介護との両立については、「育児と両立しながら働いている」が最も多く 47.8%、「介護と両立しながら働いている」3.8%、「育児・介護と両立しながら働いている」4.8%となっており、全体の約6割が育児や介護と両立しながら働いているという結果になっている。

Q10：時給はどのくらいですか？（回答数：1,194）



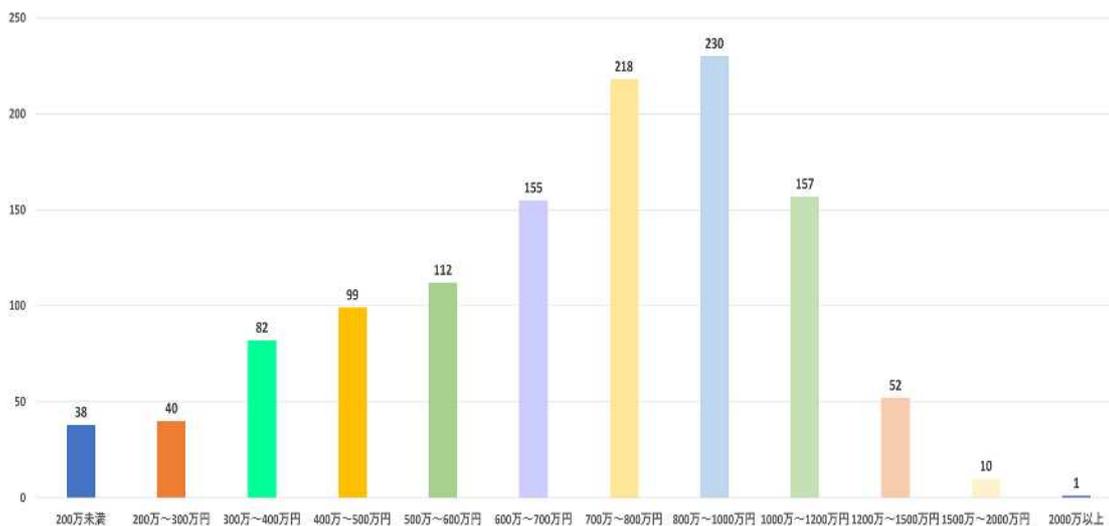
時給については、「1,200円～1,290円」が最も多く369名となっている。次いで多い回答は、「1,300円～1,390円」286名、「1,100円～1,190円」232名となっている。

Q11：自身の年間収入はどのくらいですか？（回答数：1,194）



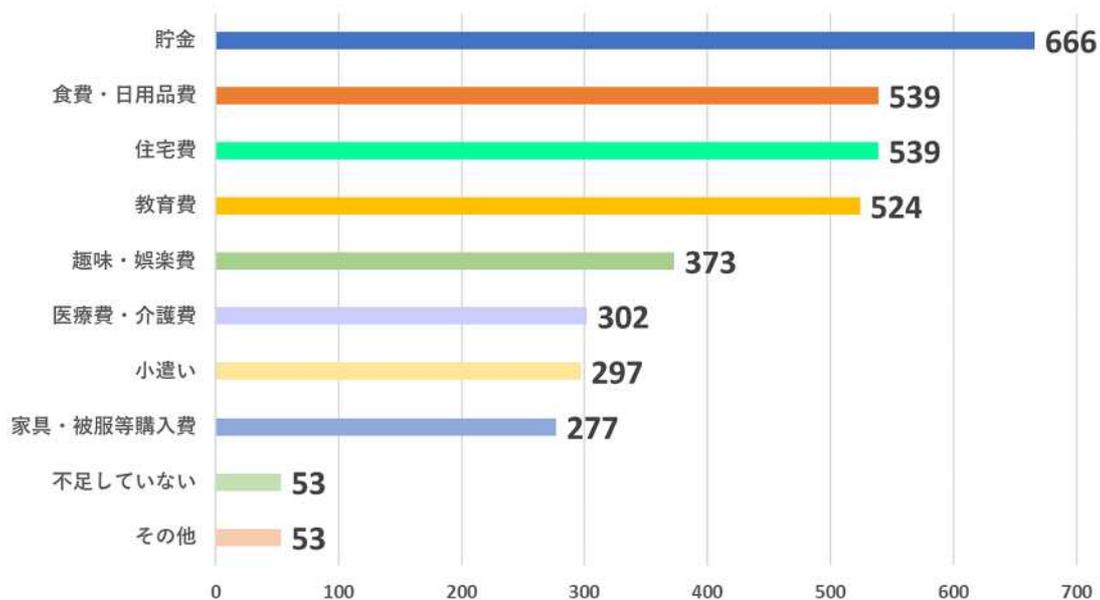
年収については、130万円以下が全体の6割以上となっている一方で、「200万以上」が258名と最も多くなっている。

Q12：世帯の年間収入はどのくらいですか？（回答数：1,194）



世帯年収では、「800万～1000万円」が最も多く230名となった。次いで、「700万～800万円」218名、「1000万～1200万円」157名となっている。

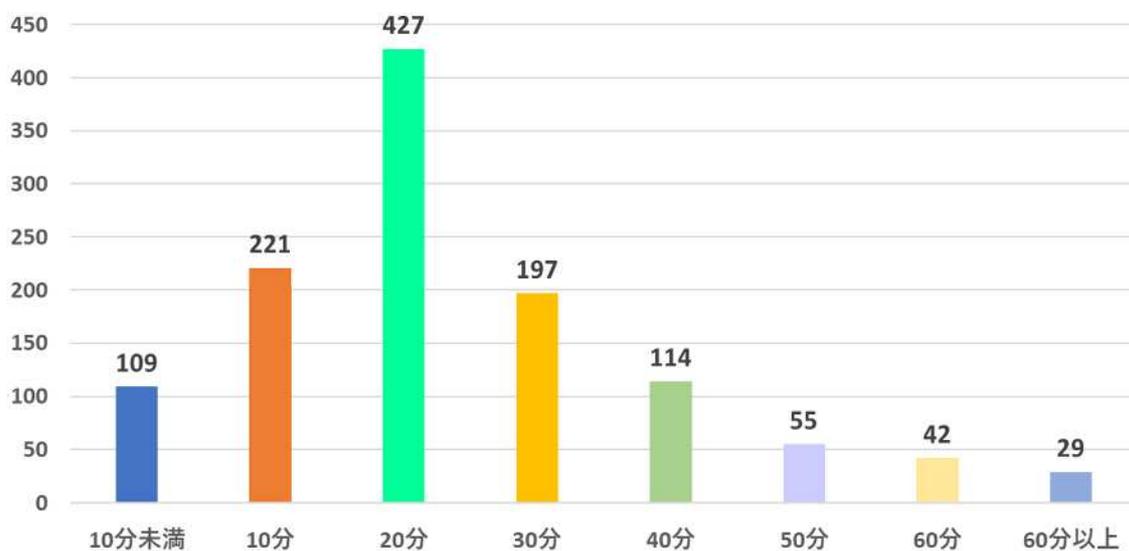
Q13：世帯収入で不足していると感じる費用は何ですか？（複数回答可）（回答数：1,194）



不足していると感じる費用では、「貯金」が最も多く 666 名となっている。次いで、「食費・日用品費」、「住宅費」はともに 539 名、「教育費」は 524 名となっている。

500 名以上回答があるものは、自分の生活に結び付くもの(『食費・日用費』『住宅費』)・将来を踏まえたもの(『貯金』『教育費』)に分けられる結果となっている。

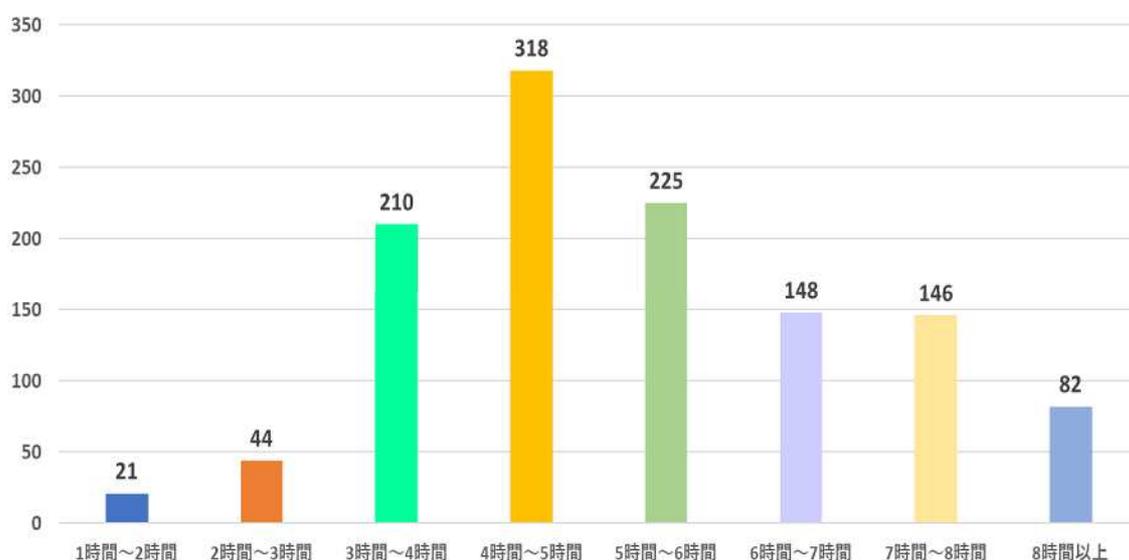
Q14：通勤時間（片道）（回答数：1,194）



通勤時間では、「20分」が最も多く 427 名となっている。次いで、「10分」が 221 名、「30分」が 197 名であった。

通勤時間が 30 分以内と回答した人数は 954 名で全体の約 8 割となり、パートタイム労働者は通勤時間 30 分圏内での勤務が多い結果となっている。

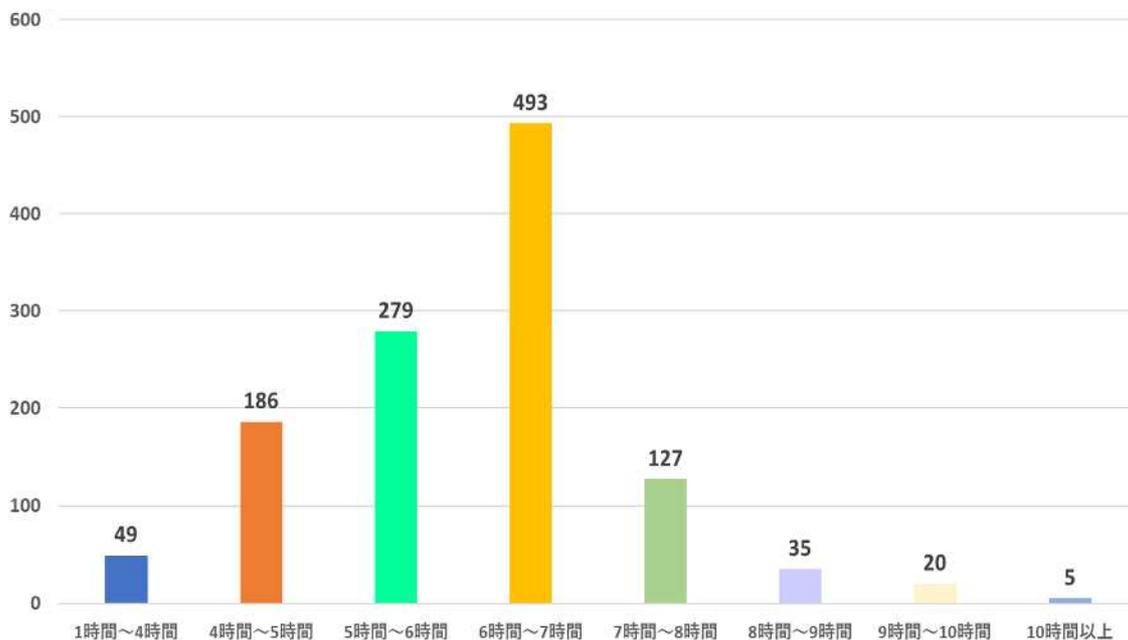
Q14：勤務時間（回答数：1,194）



勤務時間としては、「4 時間以上 5 時間未満」が最も多く 318 名となっている。次いで、「5 時間以上 6 時間未満」は 225 名、「3 時間以上 4 時間未満」は 210 名という結果となっている。

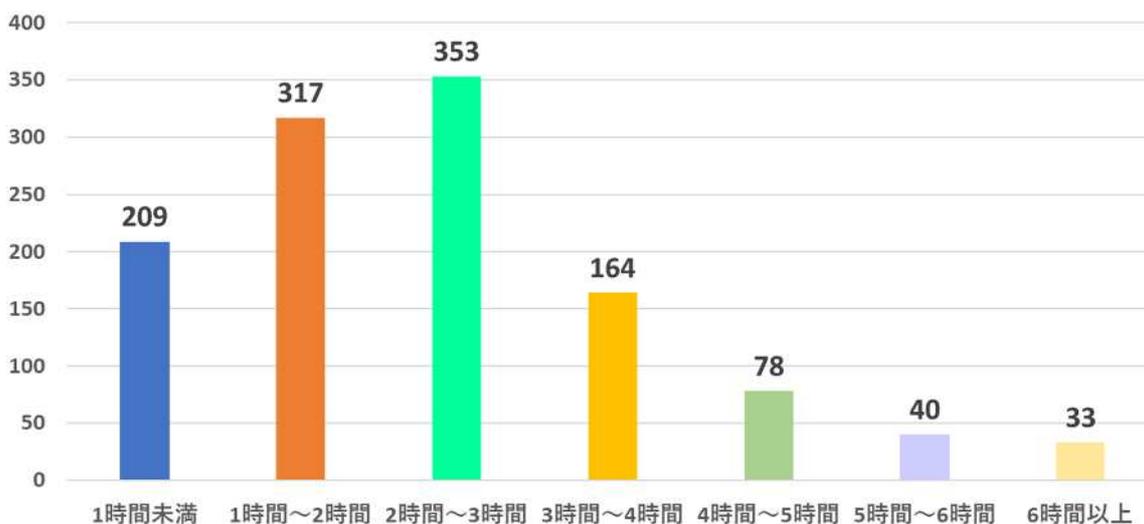
全体では、3 時間以上の勤務が 9 割以上であった。

Q14：睡眠時間（回答数：1,194）



睡眠時間では、「6時間以上7時間未満」が最も多く493名となっている。次いで「5時間以上6時間未満」は279名、「4時間以上5時間未満」は186名であった。4時間以上7時間未満の睡眠時間が全体の8割となっている。

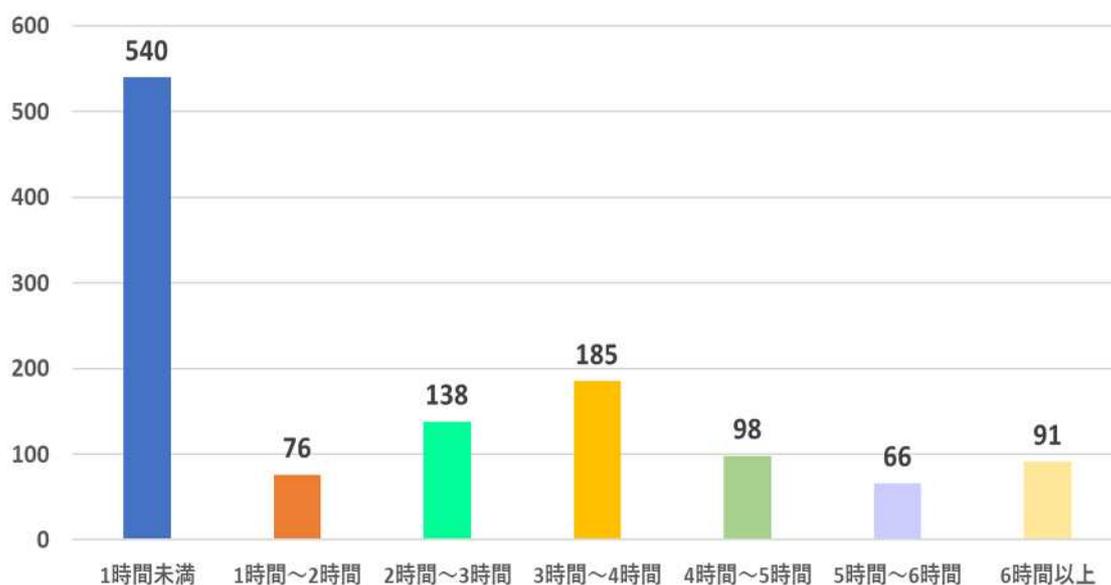
Q14：自分時間（回答数：1,194）



自分時間では、「2時間以上3時間未満」が最も多く353名となっている。

3時間未満の回答が全体の7割以上を占める結果となった。

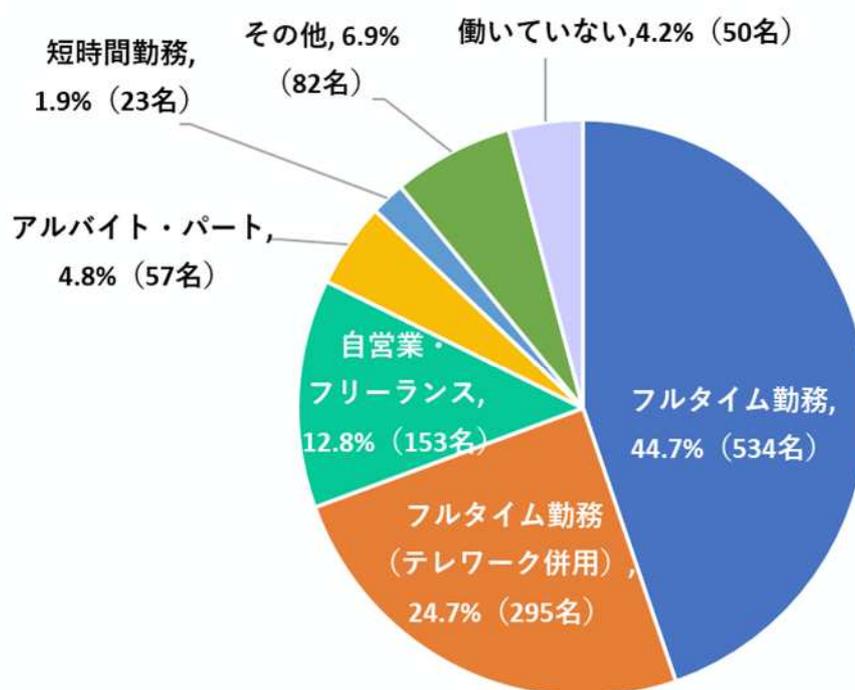
Q14：育児介護時間（回答数：1,194）



育児介護時間では、実際に育児・介護している人の中で最も多い回答数は、「3 時間以上 4 時間未満」185 名という結果となっている。

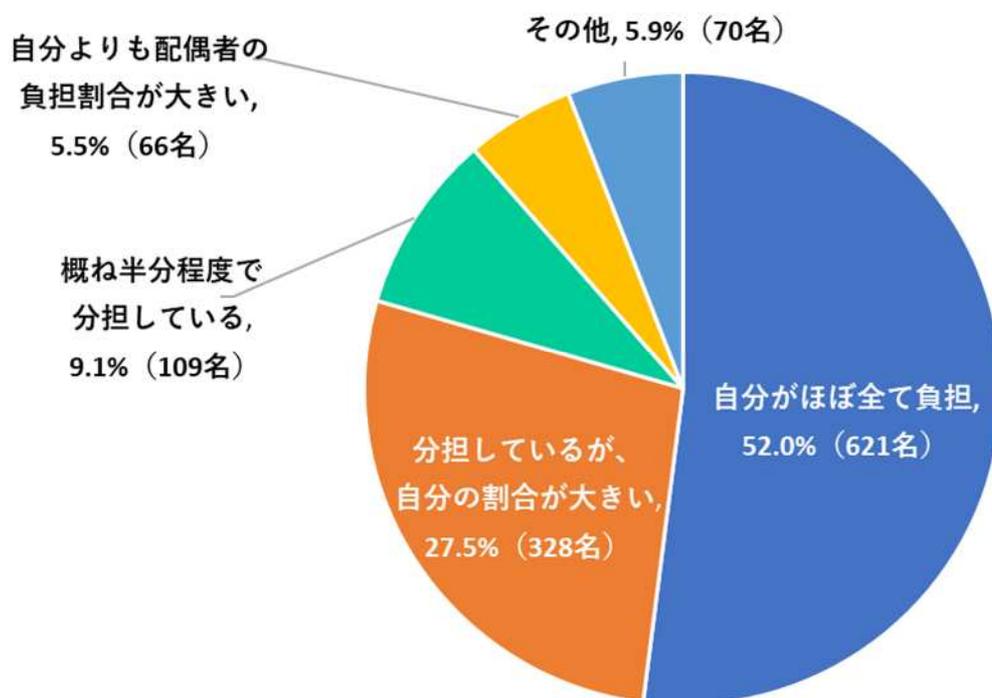
※「1 時間未満」は、育児介護していない人（Q9 より 521 名）も含まれる。

Q15：配偶者の働き方について当てはまるものは何ですか？（回答数：1,194）



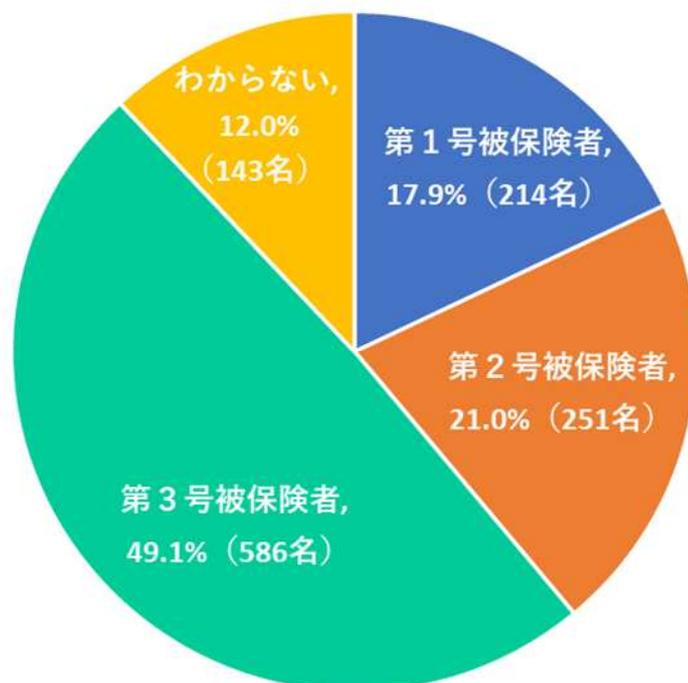
配偶者の働き方では、「フルタイム勤務」が最も多く 44.7%となっている。次いで、「フルタイム勤務(テレワーク併用)」24.7%であり、フルタイム勤務が全体の約7割であった。

Q16：家庭内での、配偶者との家事や育児等の役割分担はどのようにしていますか？
(回答数：1,194)



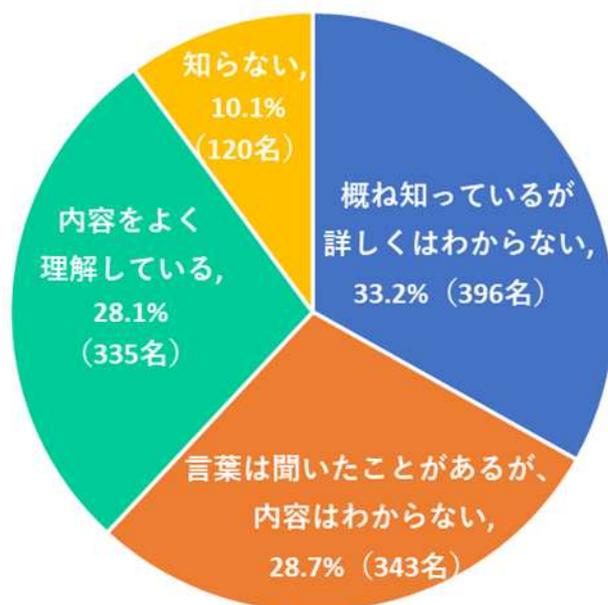
配偶者との家事や育児等の役割分担では、「自分がほぼ全て負担」が最も多く 52.0%となっており、次いで「分担しているが、自分の割合が大きい」が 27.5%となっている。自分が配偶者より負担している（『自分がほぼ全て負担』『分担しているが、自分の割合が大きい』）と感じている人は全体の約 8 割であった。

Q17：ご自身は、何号被保険者ですか？（回答数：1,194）



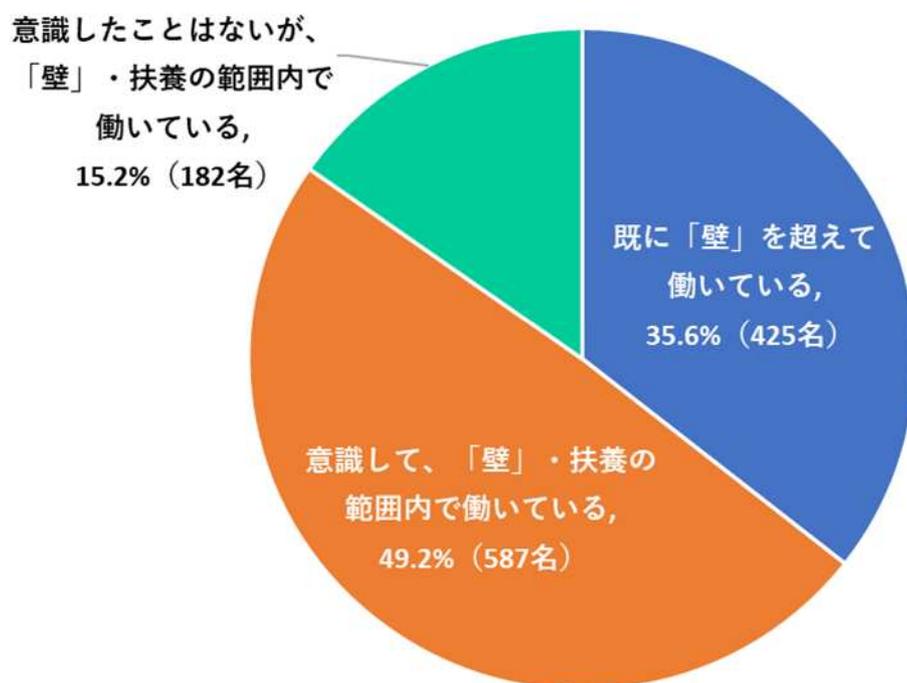
被保険者の種類では、「第3号被保険者」が最も多く49.1%と全体の約半数を占める結果となっている。「第1号被保険者」と「第2号被保険者」では回答数に大きな差はなく、それぞれ全体の2割程度であった。

Q18:いわゆる「年取の壁」という考え方について、どの程度知っていますか？(回答数:1,194)



いわゆる「年取の壁」の認知度では、「内容をよく理解している」は28.1%となっており、全体の7割以上はいわゆる「年取の壁」という考え方の理解が十分ではない結果であった。

Q19：「年収の壁」、扶養の範囲を意識して働いていますか？（回答数：1,194）

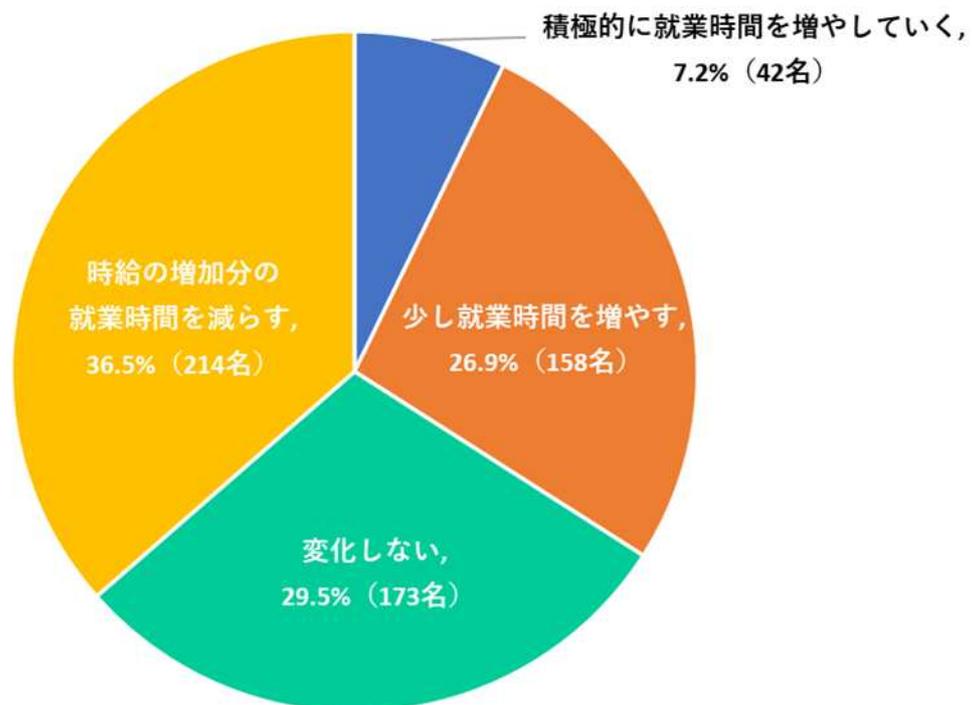


「年収の壁」・扶養の範囲の意識では、「意識して、『壁』・扶養の範囲内で働いている」が最も多く 49.2%と全体の約半分を占める結果となっている。

Q20～26 Q19で「意識して、『壁』・扶養の範囲内で働いている」とした回答者が回答
(回答数：587名)

Q20：今後時給が増加した場合、働く時間を調整することを考えていますか？

(Q19の『意識して、『壁』・扶養の範囲内で働いている』の回答者対象) (回答数：587)

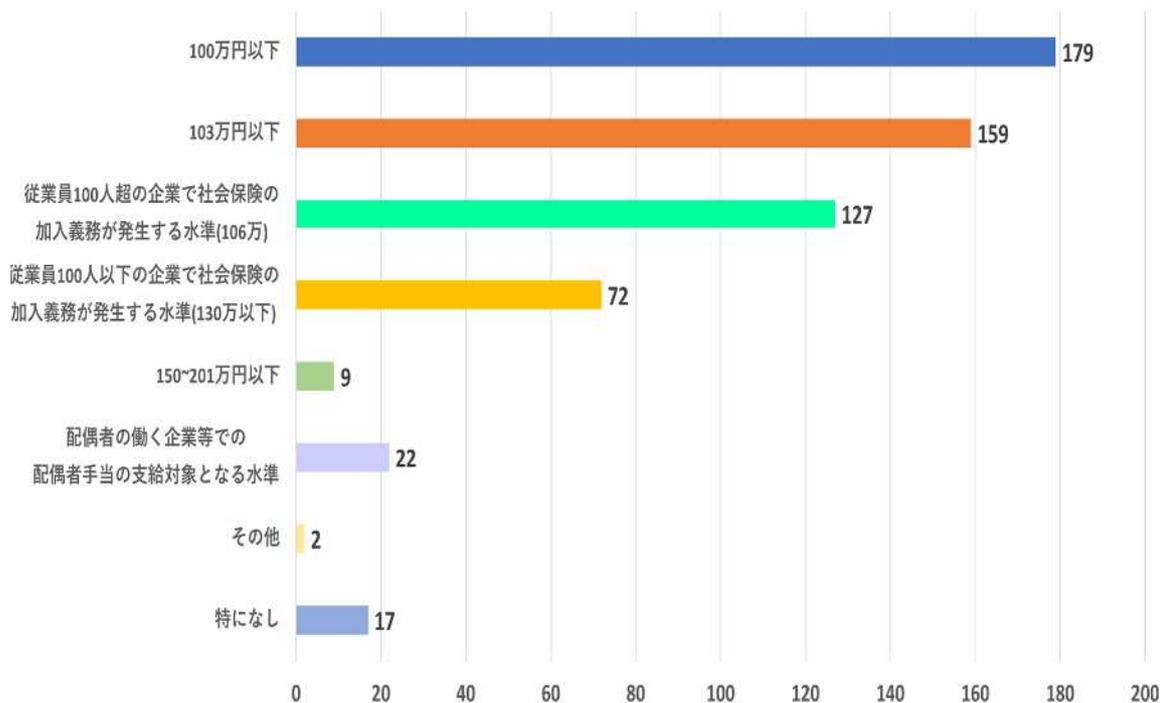


時給が増加した場合の働く時間の調整では、「時給の増加分の就業時間を減らす」が最も多く36.5%、次いで「変化しない」は29.5%となっている。「積極的に就業時間を増やしていく」は全体の1割以下であった。

Q21：年収の壁とされている事項について、どの項目を超えないように働いていますか？

(特に該当するものを一つ選択)

(Q19の『意識して、「壁」・扶養の範囲内で働いている』の回答者対象)(回答数：587)



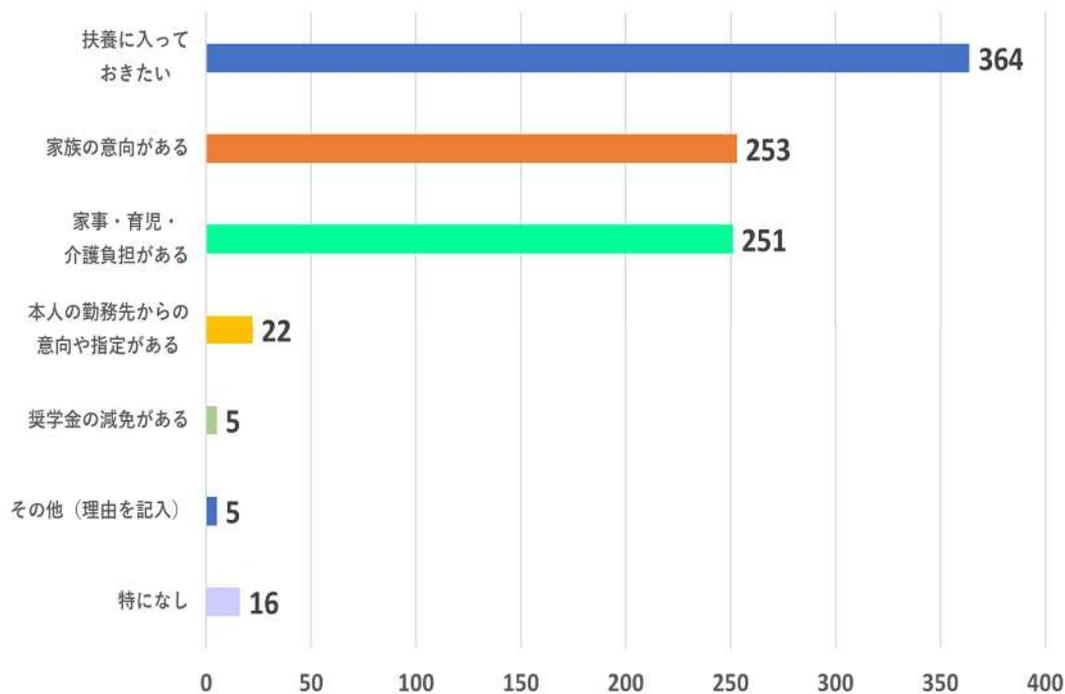
意識している「壁」については、「100万円以下」が最も多く179名、次いで「103万円以下」159名、「従業員100人超企業で社会保険の加入義務が発生する水準(106万円以下)」が127名となっている。100万円以下～106万円以下を意識している人が約8割となった。

Q22：手取り収入の減少以外に年収の壁を超えないよう意識する理由は何かありますか？

(複数回答可)

(Q19の『意識して、「壁」・扶養の範囲内で働いている』の回答者対象)

(回答数：587)



その他の回答理由(記述式)

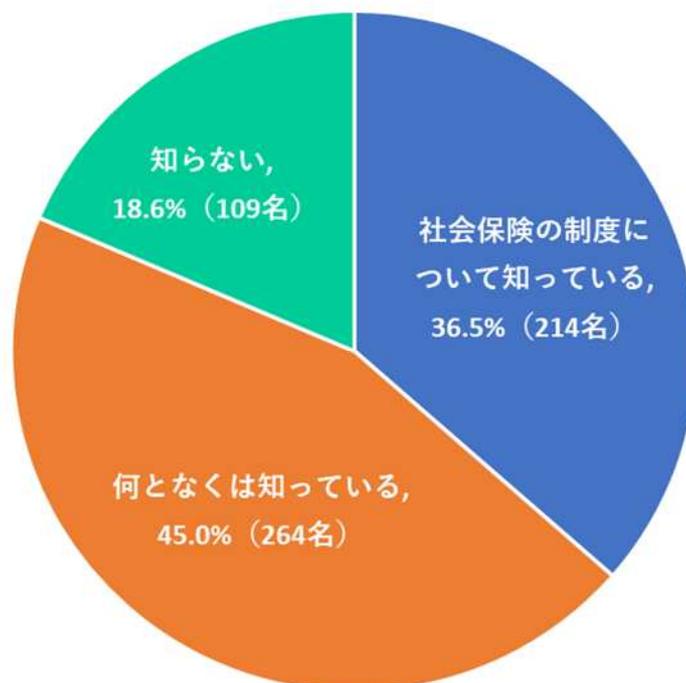
- ・収入というよりも勉強時間を減らしたくない 48歳/女性
- ・体調 57歳/女性
- ・働くのが好きではない 58歳/女性
- ・現状以上に働ける余裕がないから 47歳/女性

年収の壁を超えないよう意識する理由では、「扶養に入っておきたい」が最も多く364名となっている。次いで、「家族の意向がある」は253名、「家事・育児・介護負担がある」は251名と回答数が近い結果であった。

Q23：年収の壁を超えて働くことについて、勤務先の社会保険に加入することなどによる、将来の年金額への影響等のメリットについて知っていますか？

(Q19の『意識して、「壁」・扶養の範囲内で働いている』の回答者対象)

(回答数：587)



「年収の壁」を超えて働くことのメリットについては、「何となくは知っている」が最も多く45.0%となっている。また、「社会保険の制度について知っている」は36.5%であった。

Q24：(上記知っている場合)勤務先の社会保険への加入を選択しない(できない)理由

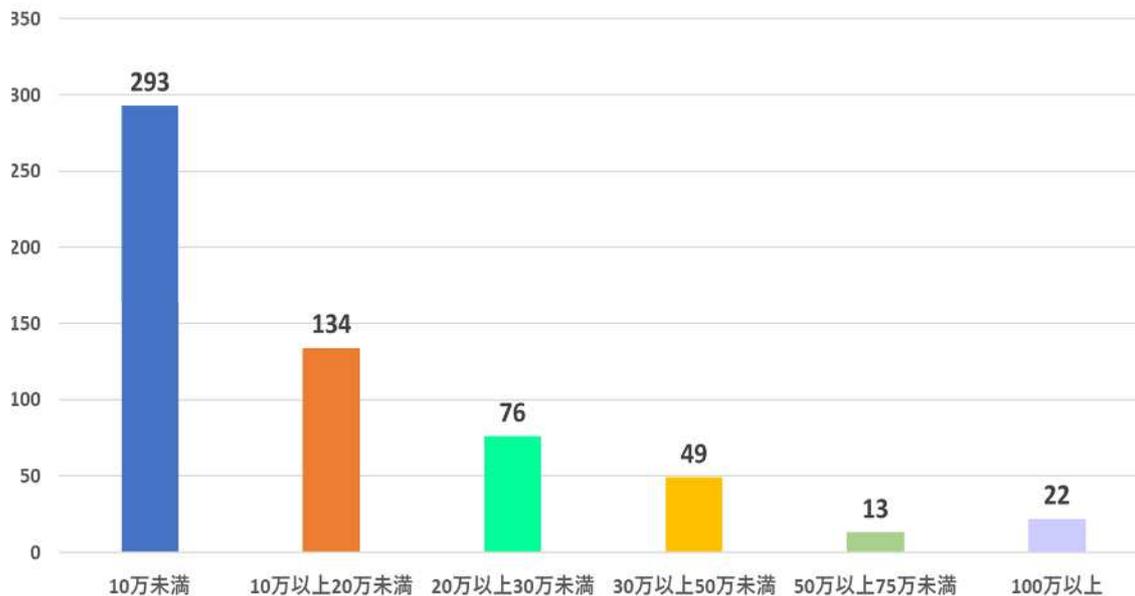
(Q19の『意識して、「壁」・扶養の範囲内で働いている』の回答者対象)

(記述式回答数：46)

- ・会社が100人前後の為、パートに社会保険加入の必須がないため、もし130万の壁を超えたら自分で国民健康保険や国民年金を支払わなければいけない(年間20万くらい) そうすると、131万円の場合は、手取りが111万円くらいになってしまい、130万円未満で働いた時より減額になってしまい損してしまう。 55歳/女性
- ・配偶者の会社の福利厚生が充実しているため、扶養に入ったままでよいと思っているから 58歳/女性
- ・健康上の理由により現在以上に長い時間勤務することが難しいため。 49歳/女性
- ・介護・育児の両立があるため 53歳/女性

Q25：年収の壁を意識せず働くことができる環境になった場合、年収であとどの程度働きたいですか？

(Q19の『意識して、「壁」・扶養の範囲内で働いている』の回答者対象) (回答数：587)



年収の壁を意識せず働くことができる環境になった場合、年収であとどの程度働きたいかでは、10万円以上を希望する人が全体の5割となっている。

Q26：年収の壁を意識しない働き方をするために行政に期待することは何ですか？

(Q19の『意識して、「壁」・扶養の範囲内で働いている』の回答者対象)

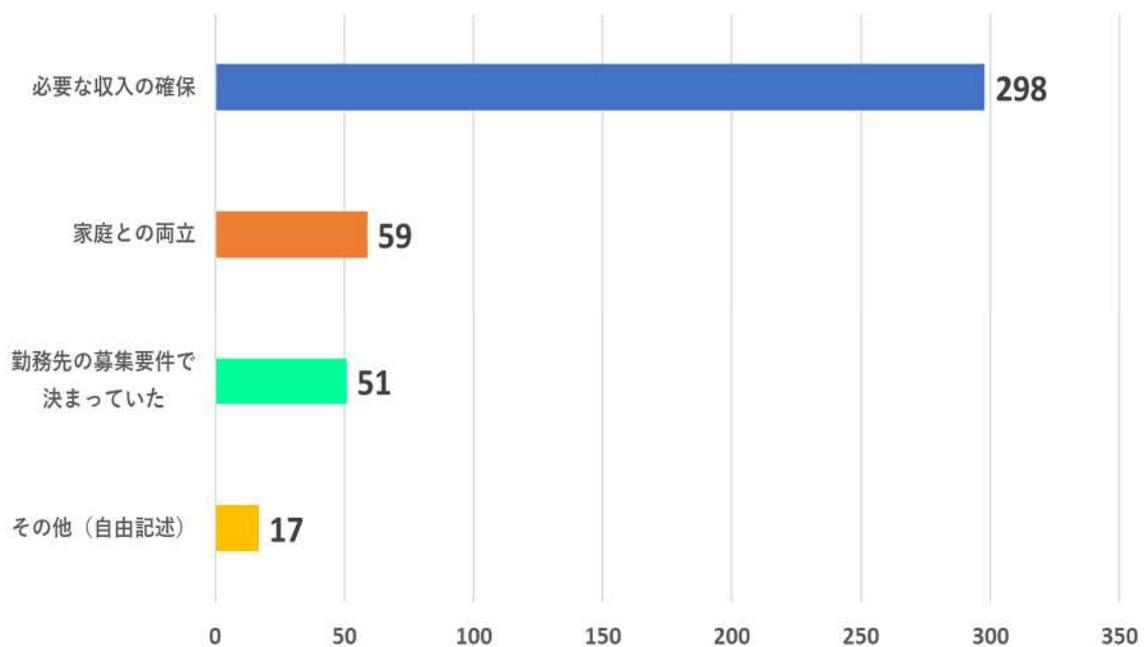
(記述式回答数：49)

- ・働き損になる年収ゾーンをなくしてほしい 44歳/女性
- ・ある一定の金額で壁を作らず、収入に比例した課税にしてほしい。
今の物価に見合うよう、壁の金額を上げて欲しい(103→130万円) 52歳/女性
- ・分かりやすい内容にしてほしい 46歳/女性
- ・パートはただでさえ年収が少ないので、とにかく社保年金など大きな控除はやめてほしい。 52歳/女性

Q27～35 Q19で「既に『壁』を越えて働いている」とした回答者が回答
(回答数：425)

Q27：就業時間を決めるにあたり、優先したことは何ですか？

(Q19の『既に「壁」を超えて働いている』の回答者対象) (回答数：425)



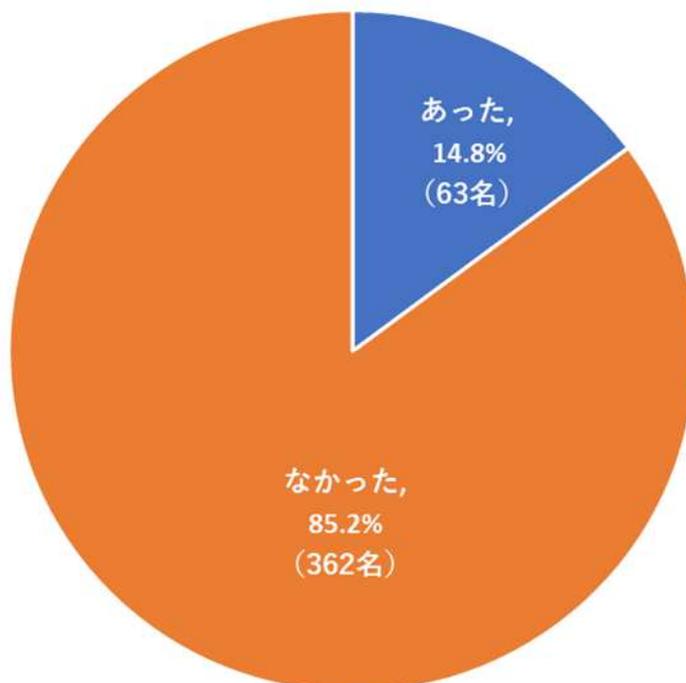
その他の回答理由

- ・自分の時間の確保 44歳/女性
- ・体力を消耗しすぎない 57歳/女性
- ・仕事内容 49歳/女性
- ・業種 39歳/女性

就業時間を決めるにあたり優先した事項については、「必要な収入の確保」が最も多く298名で全体の7割以上となっている。

Q28：年収の壁を超えることに抵抗はありましたか？

(Q19の『既に「壁」を超えて働いている』の回答者対象) (回答数：425)



「壁」を超えることへの抵抗に関する設問では、「なかった」が85.2%という結果となっている。既に「壁」を超えているパートタイム労働者の多くは、抵抗なく「壁」を超えていることがわかった。

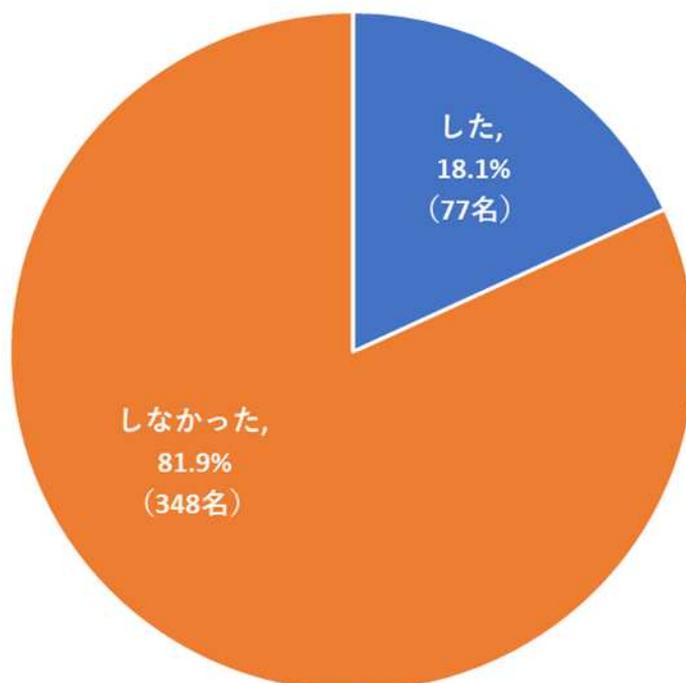
Q29：(Q28であったを選択した場合) どのような点で抵抗がありましたか？

(Q19の『既に「壁」を超えて働いている』の回答者対象) (記述式回答数：32)

- ・社会保険料の負担により手取りが逆転すること。 53歳/女性
- ・扶養手当がもらえない 57歳/女性
- ・勤務時間が増え、家事が今まで通りにできないこと 49歳/女性
- ・もっと働きたいが社会保険料がかかるその葛藤。 40歳/女性

Q30：年収の壁を超えない場合と比較検討などはしましたか？

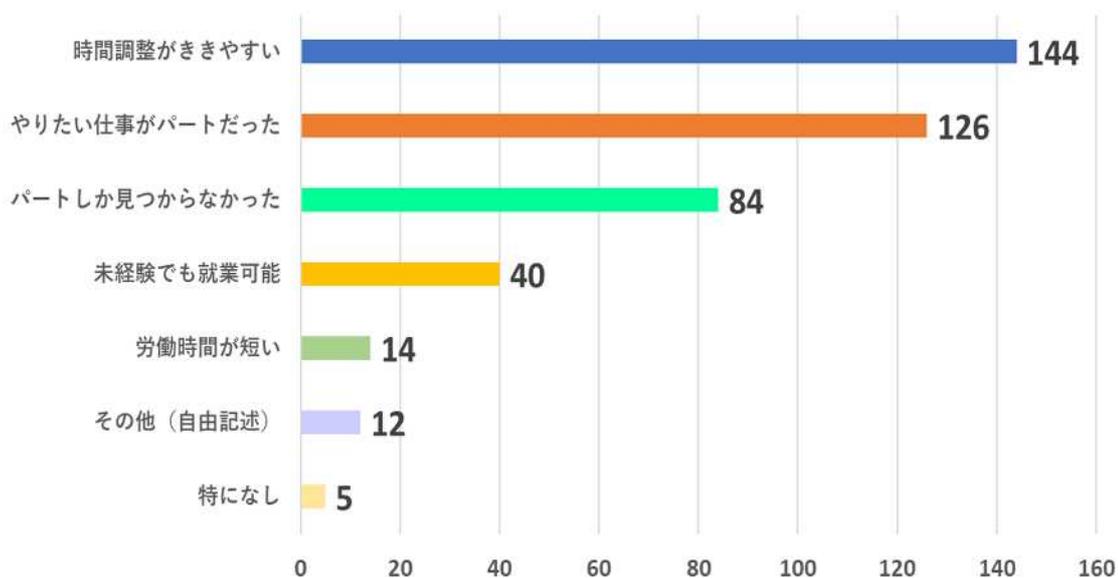
(Q19の『既に「壁」を超えて働いている』の回答者対象) (回答数：425)



年収の壁を超えない場合と比較検討などをしたかという設問では、「しなかった」が81.9%となっており、既に「壁」を超えて働いている人の多くが比較検討を行っていないという結果であった。

Q31：パートタイムを選択している理由は何ですか？

(Q19の『既に「壁」を超えて働いている』の回答者対象) (回答数：425)



その他の回答理由

- ・ほかにやりたい仕事 (副業) があるから 53 歳/女性
- ・家族との時間も作りたい 49 歳/女性
- ・家から近かった 46 歳/女性
- ・勉強時間の確保 33 歳/女性

パートタイムを選択している理由については、「時間調整がききやすい」が最も多く 144 名となっている。次いで「やりたい仕事がパートだった」は 126 名、「パートしか見つからなかった」は 84 名となった。

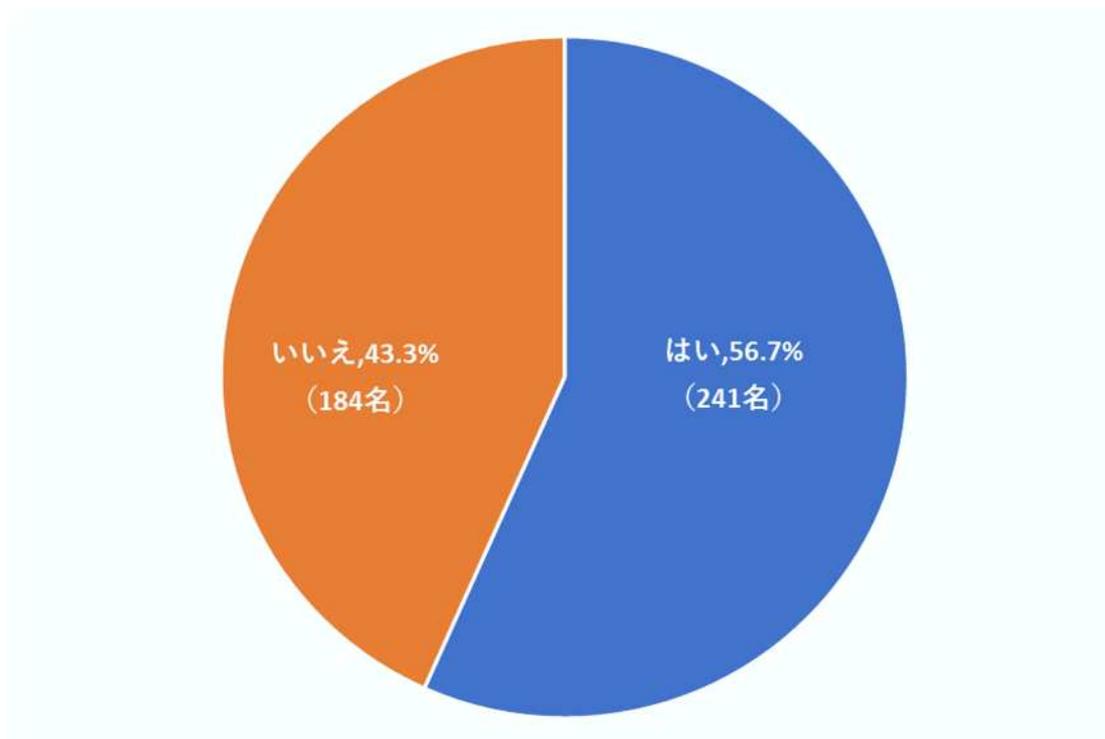
Q32：(Q31で「労働時間が短い」を選択した場合) 短時間の労働を希望する理由を教えてください。(Q19の『既に「壁」を超えて働いている』の回答者対象)

(記述式回答数：5)

- ・子供の保育園のお迎え時間があるので 45 歳/女性
- ・家事育児時間と自分の時間の確保のため 45 歳/女性
- ・体が不自由なので長時間勤務する自信がなかった 54 歳/女性
- ・家事・育児・介護との両立のため 50 歳/女性
- ・家事の時間が取れるから 56 歳/女性

Q33：正社員になれるとしたらなりたいと思いますか？

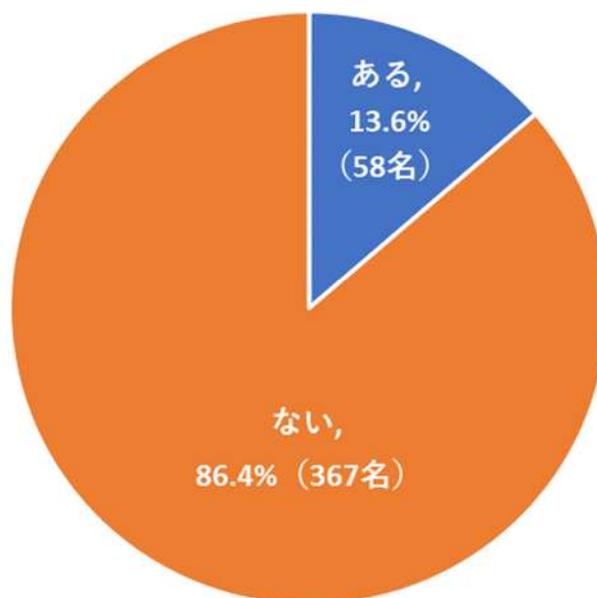
(Q19の『既に「壁」を超えて働いている』の回答者対象) (回答数：425)



正社員への意向に関する設問では、「はい」が56.7%となっており、既に「壁」を超えて働いているパートタイム労働者は正社員を希望している割合が多い結果となった。

Q34：これまでに「年収の壁」を意識した就業調整をしたことがありますか？

(Q19の『既に「壁」を超えて働いている』の回答者対象) (回答数：425)



これまでの「年収の壁」を意識した就業調整に関する設問では、「ない」が86.4%となっており、これまで「年収の壁」を意識して就業調整をしたことがある人は少数派であった。

Q35：(Q34であるを選択した場合) その後に壁を超えることに至った理由は何ですか？

(Q19の『既に「壁」を超えて働いている』の回答者対象) (記述式回答数：28)

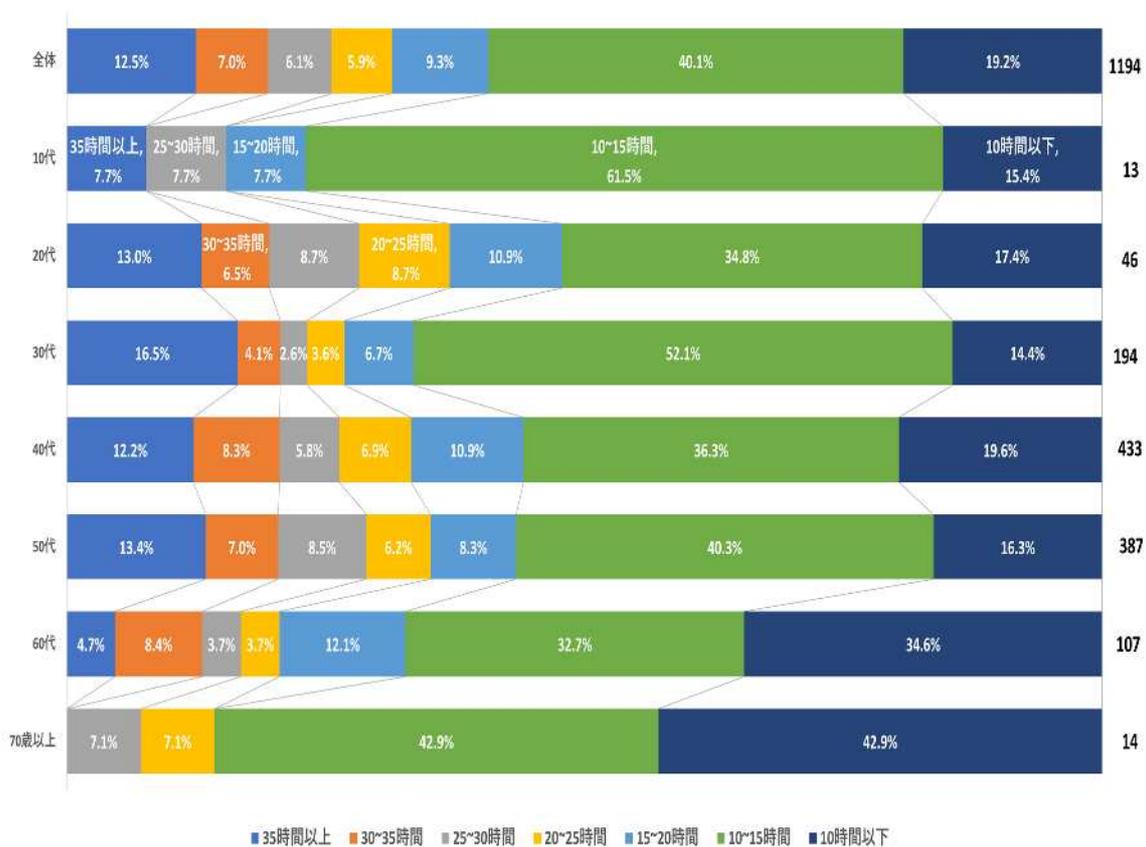
- ・Wワーク・2箇所掛け持ちで仕事をしているから 54歳/女性
- ・子供が大きくなったから 53歳/女性
- ・子どもの進学のため 48歳/女性
- ・人が少なく、超えて働かないと職場に居づらいと思ったから 49歳/女性

(2)クロス集計結果

Q1：ご自身の年代を回答してください。

Q5：ご自身の現在の週の勤務時間はどのくらいですか？

(回答数：1,194)

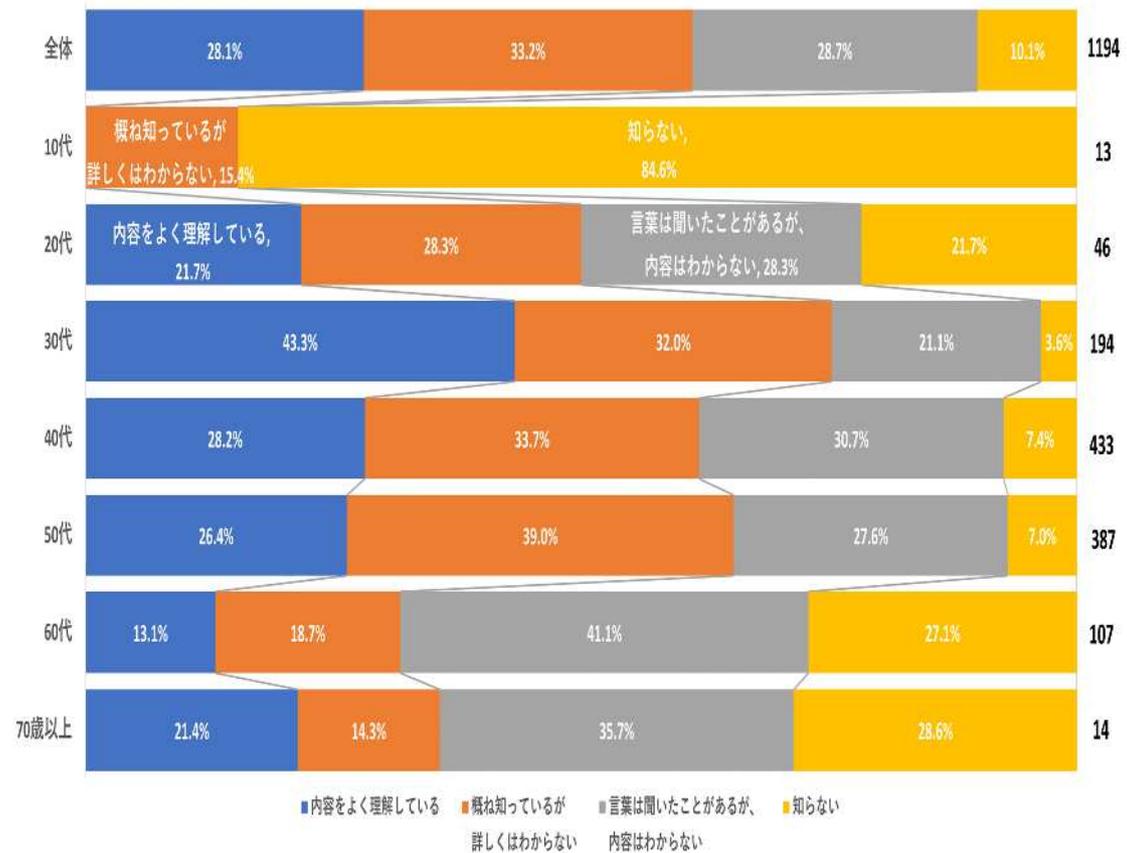


年代別に週の勤務時間を見ると、30代は20代、40・50代と比べて15時間未満の占める割合が高くなっている。

Q1 : ご自身の年代を回答してください。

Q18: いわゆる「年収の壁」という考え方について、どの程度知っていますか？

(回答数 : 1,194)



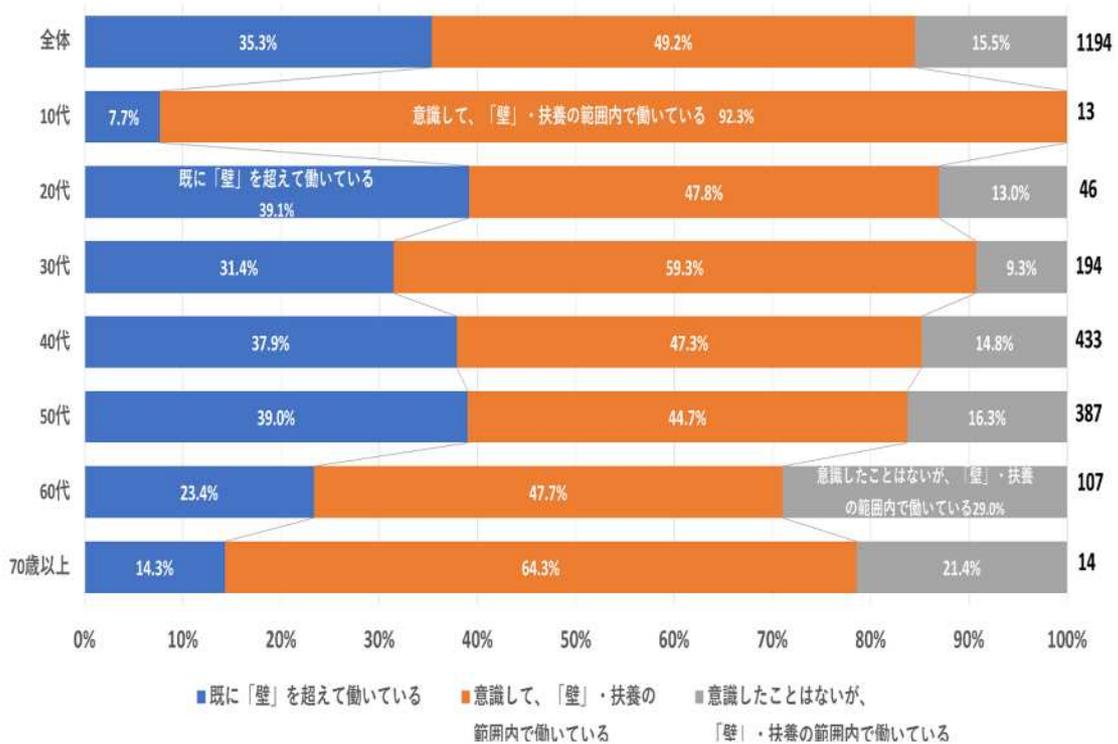
年代別に「壁」の認知度を見ると、30代は「内容をよく理解している」が43.3%と高い結果となっている。

一方で、10代は「知らない」が84.6%となり、40代以上においても「壁」の内容は知らないとした回答(『内容をよく理解している』以外の合計)が7割以上という結果であった。

Q1 : ご自身の年代を回答してください。

Q19 : 「年収の壁」、扶養の範囲を意識して働いていますか？

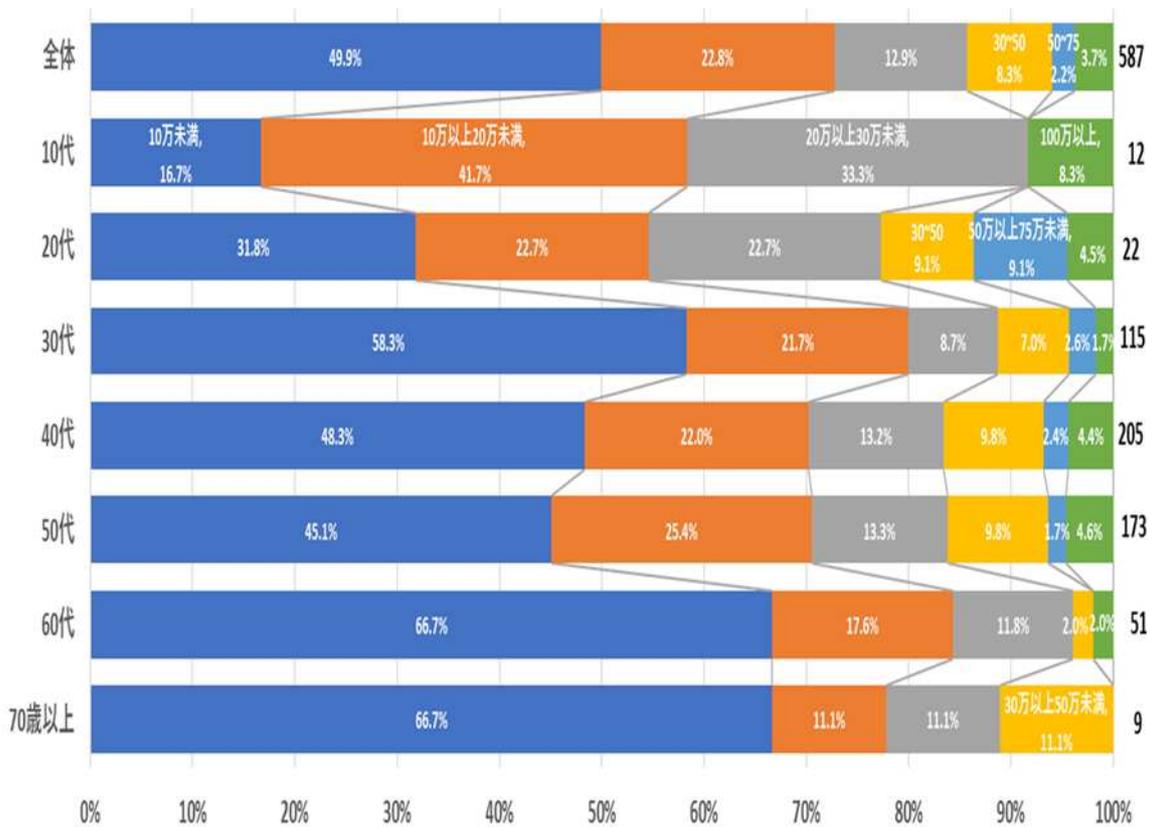
(回答数 : 1,194)



年代別に「年収の壁」・扶養の範囲の意識を見ると、20代、40・50代は「既に『壁』を超えて働いている」が約4割となっている。一方、30代では「意識して『壁』・扶養の範囲内で働いている」59.3%となっており、「壁」等を意識して働いている割合が高い結果となった。

Q1：ご自身の年代を回答してください。

Q25：年収の壁を意識せず働くことができる環境になった場合、年収であとどの程度働きたいですか？（回答数：587）



年代別に年収の壁を意識せず働くことができる環境になった場合の追加年収の意向を見ると、30代・60代等では「10万円未満」の割合が高い結果となっている。

Q2：お子様の人数に当てはまるものは何ですか？

Q5：ご自身の現在の週の勤務時間はどのくらいですか？

(回答数：1,194)

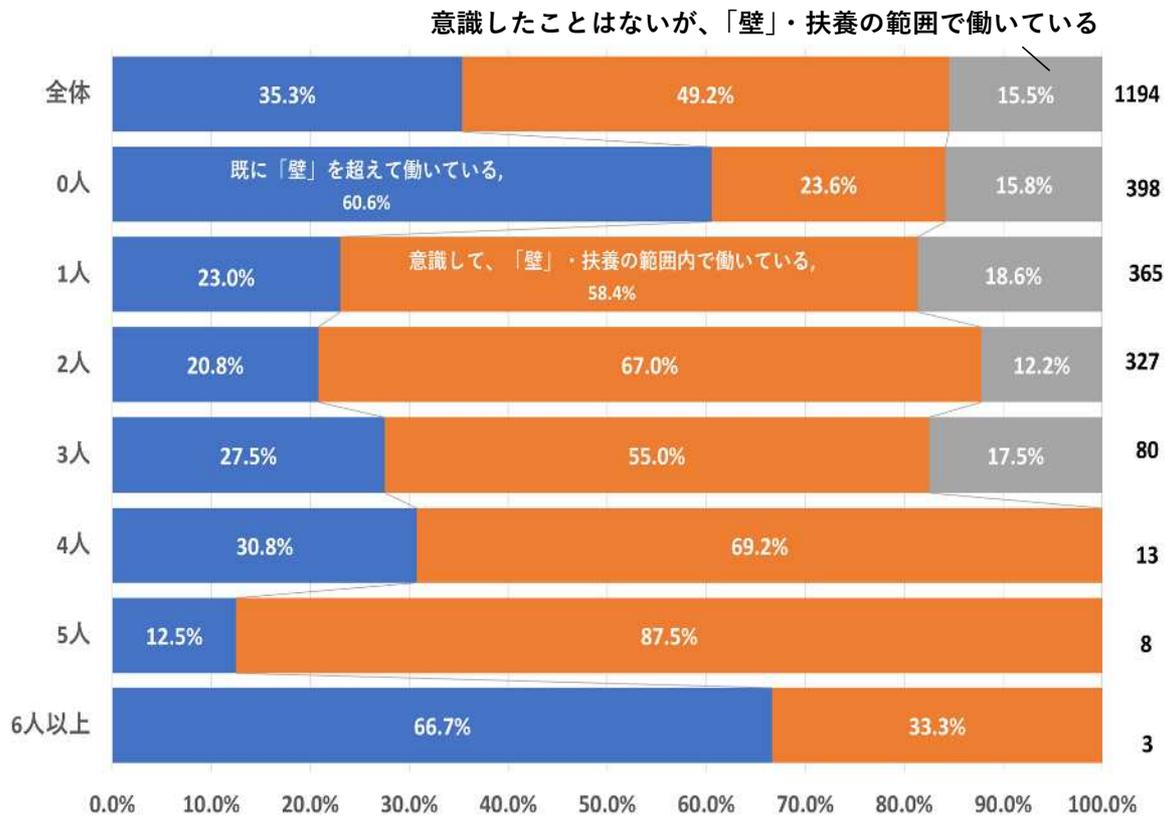


週の勤務時間別に子どもの人数を見ると、週の勤務時間が短くなるほど、子どもがいる人の割合は高くなる傾向があった。また、子どもが1人・2人いる人は週勤務時間が「10～15時間」が最も多い回答数となっている

Q2：お子様の人数に当てはまるものは何ですか？

Q19：「年収の壁」、扶養の範囲を意識して働いていますか？

(回答数：1,194)

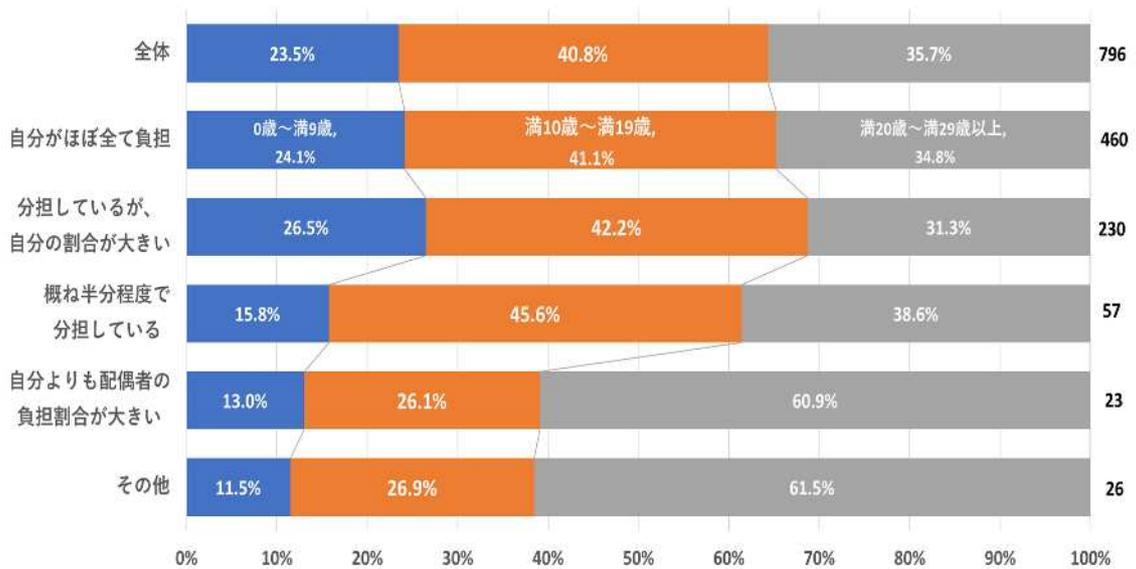


子どもの人数別に「年収の壁」・扶養の範囲の意識を見ると、子どもがいない人（0人）は「既にもう壁を超えている」が6割以上を占めている。一方で、子どもがいる人は「意識して、『壁』・扶養の範囲内で働いている」の割合が高くなっている。

Q3：一番下のお子様の年齢に当てはまるのは何ですか？

Q16：家庭内での、配偶者との家事や育児等の役割分担はどのようにしていますか？

(回答数：796)



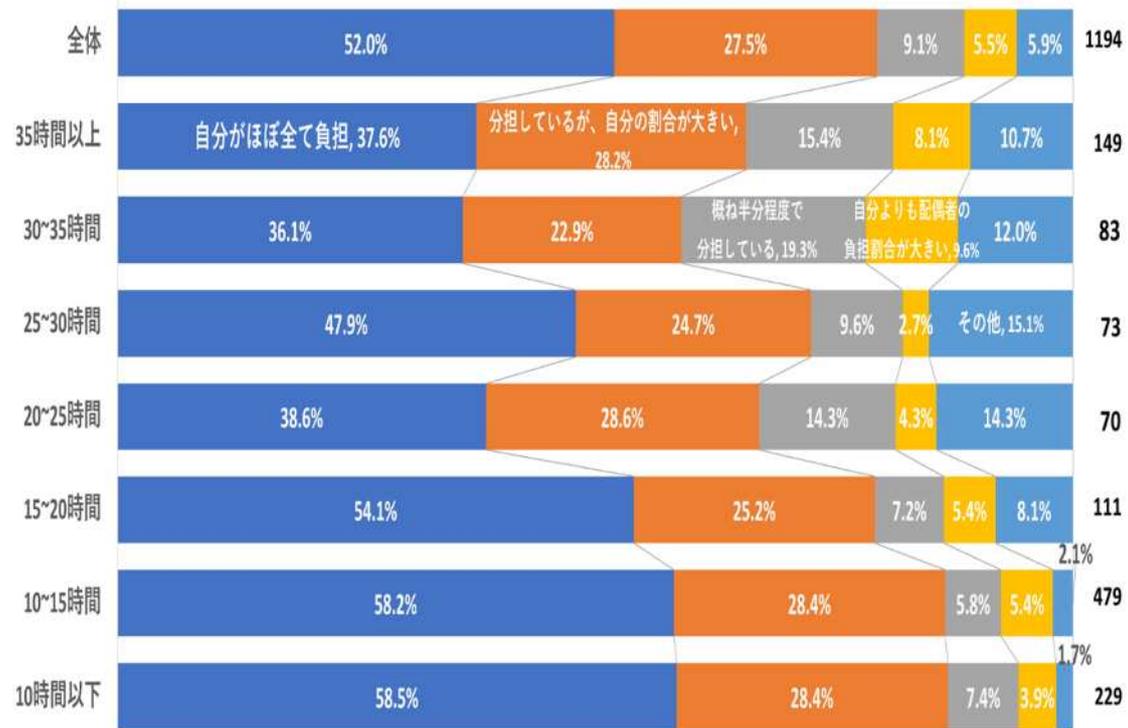
家庭内での役割分担別に一番下の子どもの年齢を見ると、「自分がほぼ全て負担」「分担しているが、自分の割合が大きい」等では19歳までの子どもの割合が高くなっている。

一方で、「自分よりも配偶者の負担割合が大きい」では20歳以上の割合が高くなっている。

Q5：ご自身の現在の週の勤務時間はどのくらいですか？

Q16：家庭内での、配偶者との家事や育児等の役割分担はどのようにしていますか？

(回答数：1,194)

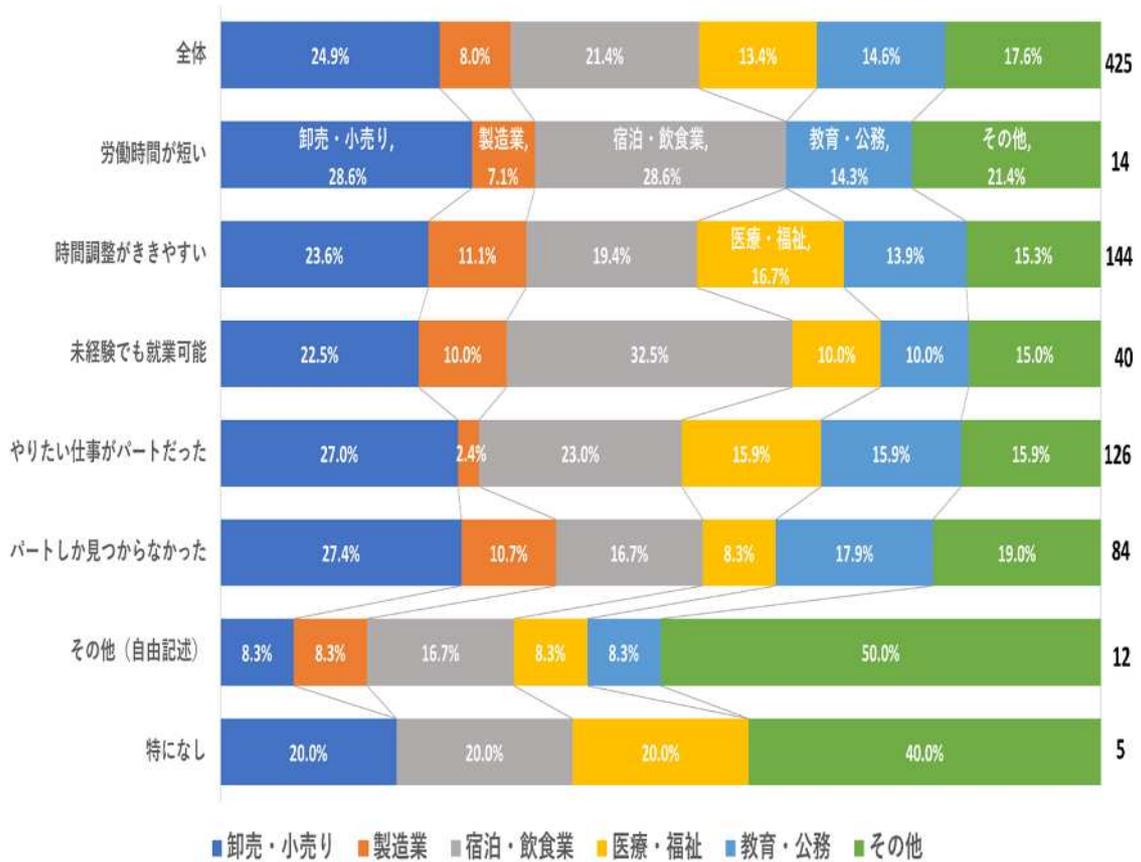


週の勤務時間別に家庭内での役割分担を見ると、週の勤務時間が長くなるほどに、「自分がかほぼ全て負担」の割合が小さくなり、分担が進む傾向にあった。

Q7：ご自身の現在の業種を教えてください。

Q31：パートタイムを選択している理由は何ですか？

(回答数：425)

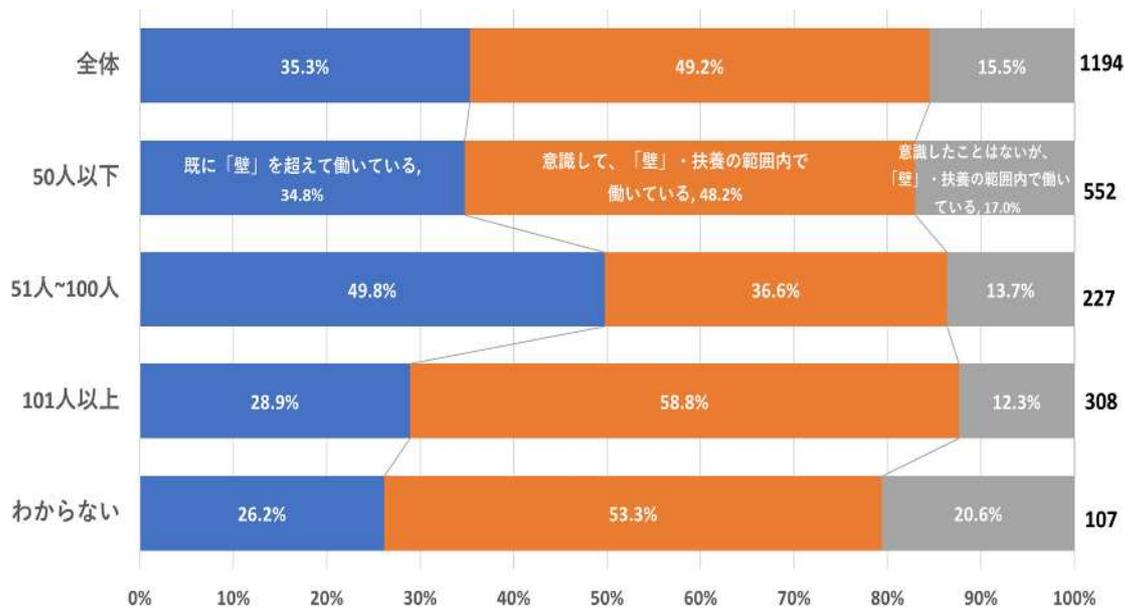


パートタイムを選択している理由については、業種ごとに顕著な差は見られない。

Q8：勤務先の企業規模を教えてください。

Q19：「年収の壁」、扶養の範囲を意識して働いていますか？

(回答数：1,194)

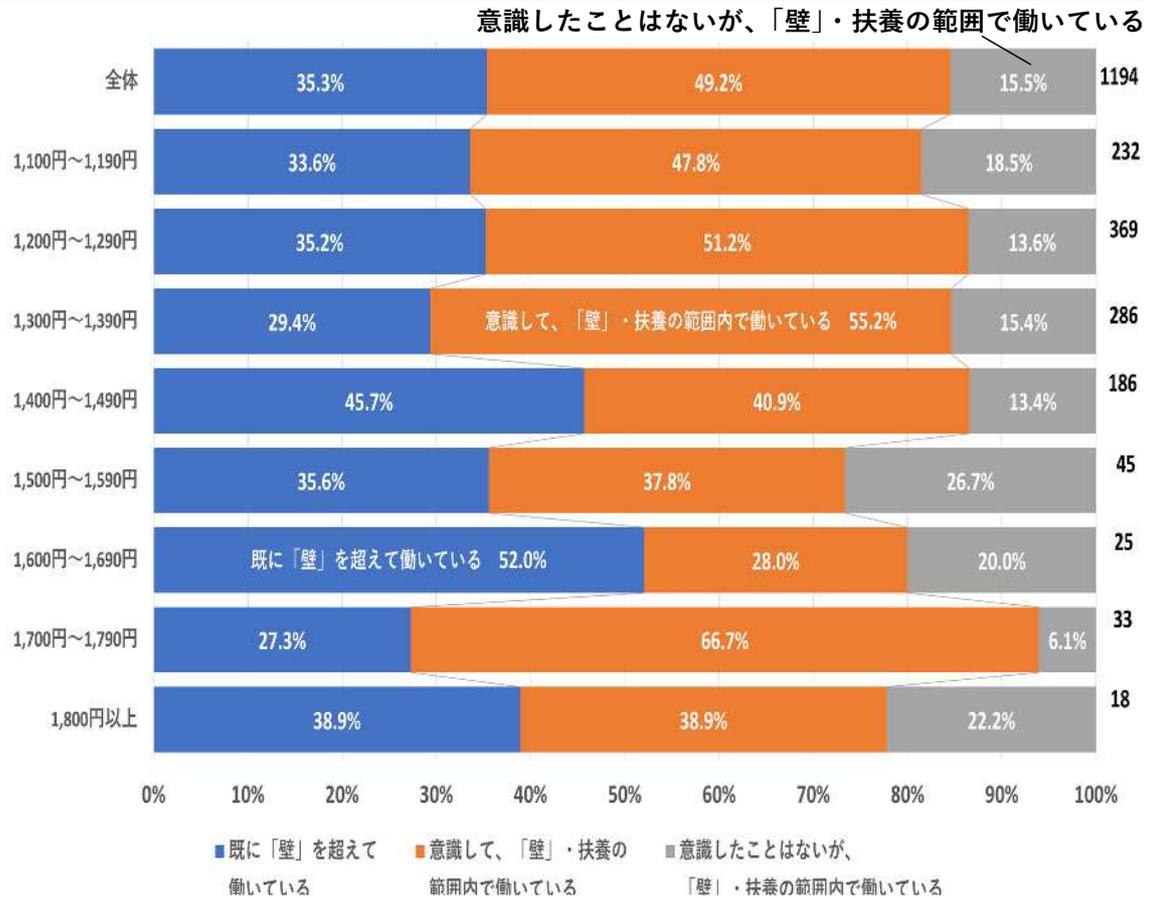


企業規模別に「年収の壁」・扶養の範囲の意識を見ると、51~100人規模で「既に『壁』を超えて働いている」が最も多い回答数となっている。その他の企業規模では「意識して、『壁』・扶養の範囲内で働いている」が最も多い結果となった。

Q10：時給はどのくらいですか？

Q19：「年収の壁」、扶養の範囲を意識して働いていますか？

(回答数：1,194)

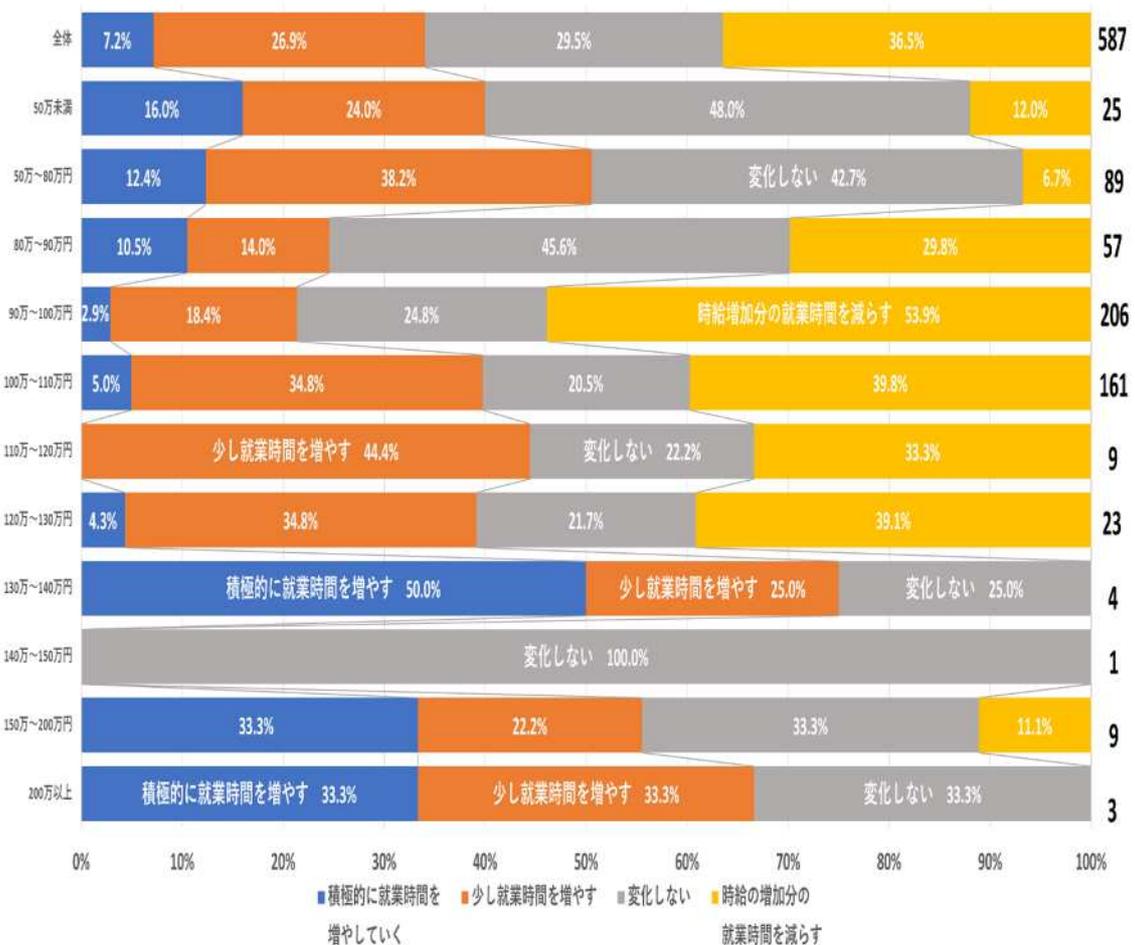


時給別で「年収の壁」、扶養の範囲の意識を見ると、1390円未満では、「意識して、『壁』・不要の範囲内で働いている」が半数程度を占める結果となっている。

Q11：自身の年間収入はどのくらいですか？

Q20：今後時給が増加した場合、働く時間を調整することを考えていますか？

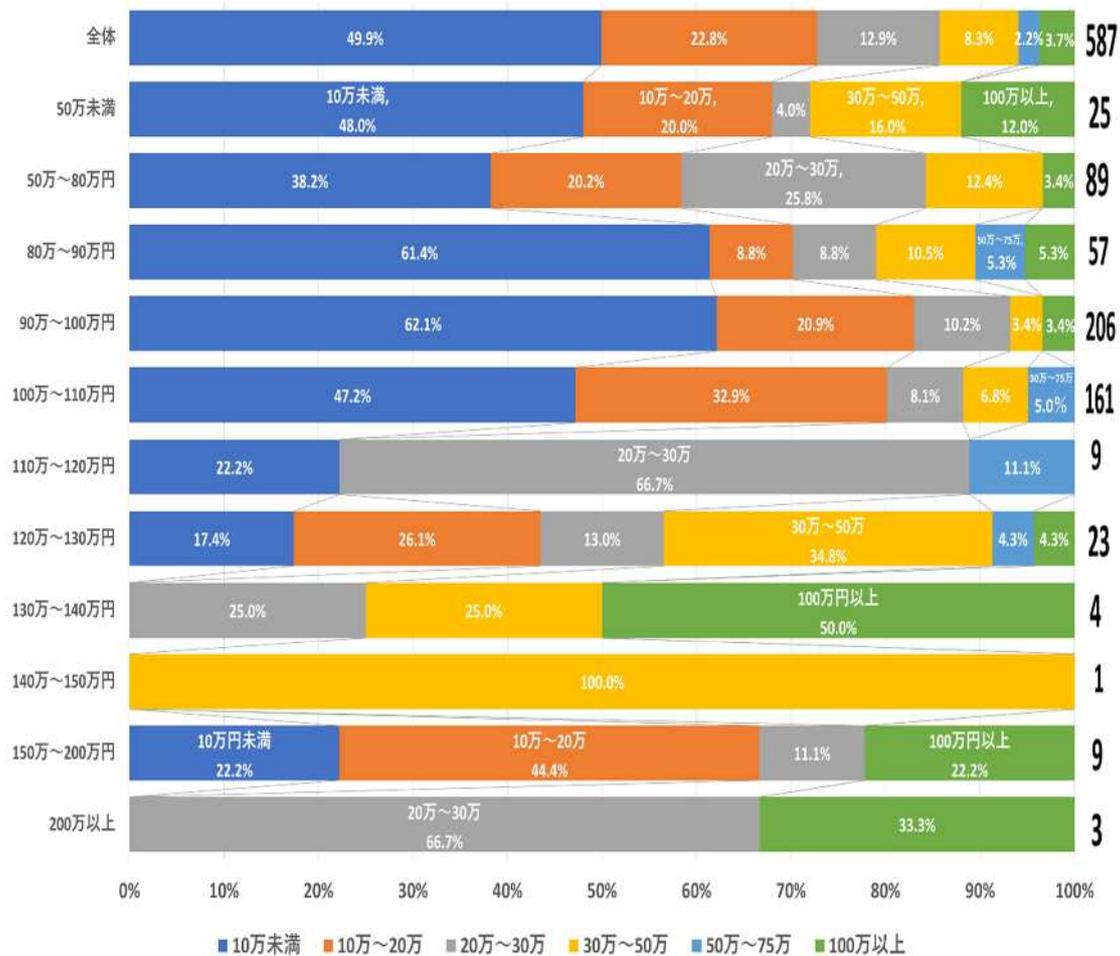
(回答数：587)



自身の年収別に追加年収の意向を見ると、「壁」付近の90万円～130万円では「時給の増加分の就業時間を減らす」が53.9%と最も多くなっている。

Q11：自身の年間収入はどのくらいですか？

Q25：年収の壁を意識せず働くことができる環境になった場合、
年収であとどの程度働きたいですか？（回答数：587）

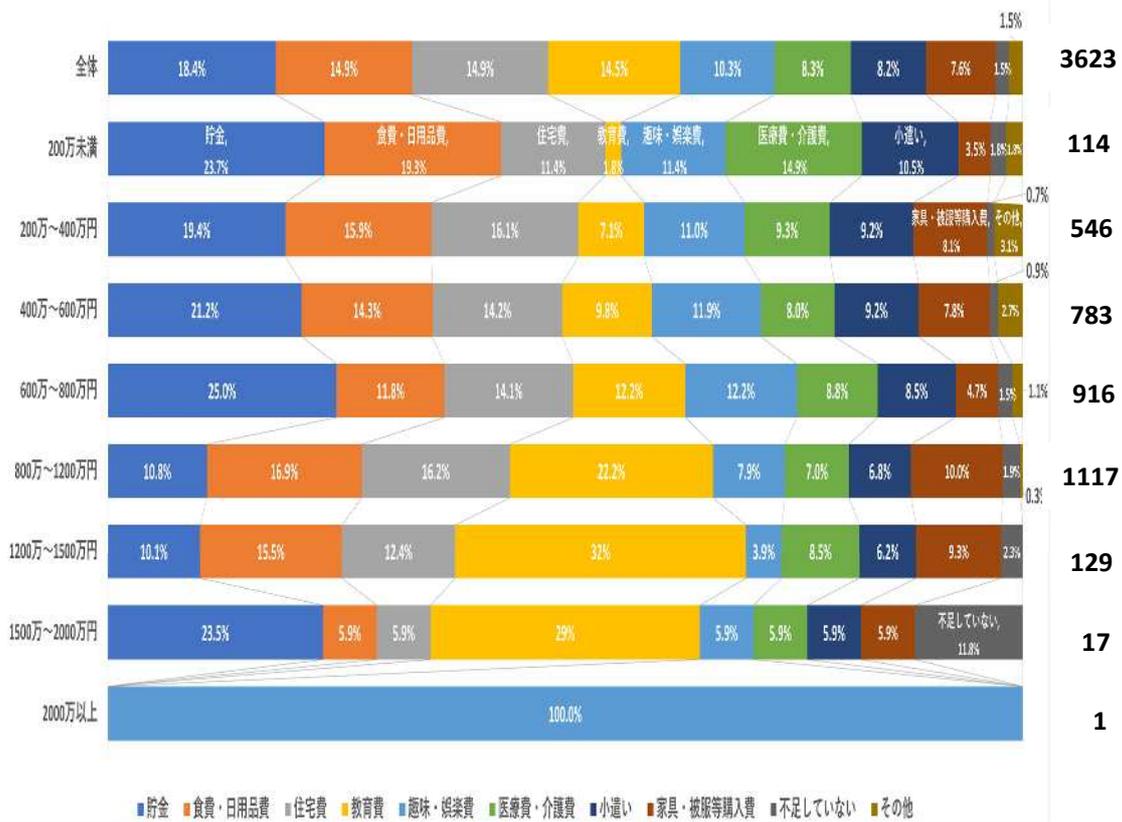


自身の年収別に追加年収の意向を見ると、80万～100万円では「10万円未満」の割合が高くなっているが、130万円以上の層では追加年収で10万円以上を希望する割合が高くなっている。

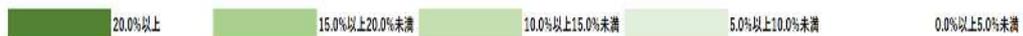
Q12：世帯の年間収入はどのくらいですか？

Q13：世帯収入で不足していると感じる費用は何ですか？（複数回答可）

（回答数：1,194）



	貯金	食費・日用品費	住宅費	教育費	趣味・娯楽費	医療費・介護費	小遣い	家具・被服等購入費	不足していない	その他
2000万以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
1500万～2000万円	23.5%	5.9%	5.9%	29.4%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	11.8%	0.0%
1200万～1500万円	10.1%	15.5%	12.4%	31.8%	3.9%	8.5%	6.2%	9.3%	2.3%	0.0%
800万～1200万円	10.8%	16.9%	16.2%	22.2%	7.9%	7.0%	6.8%	10.0%	1.9%	0.3%
600万～800万円	25.0%	11.8%	14.1%	12.2%	12.2%	8.8%	8.5%	4.7%	1.9%	1.1%
400万～600万円	21.2%	14.3%	14.2%	9.8%	11.9%	8.0%	9.2%	7.8%	0.9%	2.7%
200万～400万円	19.4%	15.9%	16.1%	7.1%	11.0%	9.3%	9.2%	8.1%	0.7%	3.1%
200万未満	23.7%	19.3%	11.4%	1.8%	11.4%	14.9%	10.5%	3.5%	1.8%	1.6%
全体	18.4%	14.9%	14.9%	14.5%	10.3%	8.3%	8.2%	7.6%	1.5%	1.5%



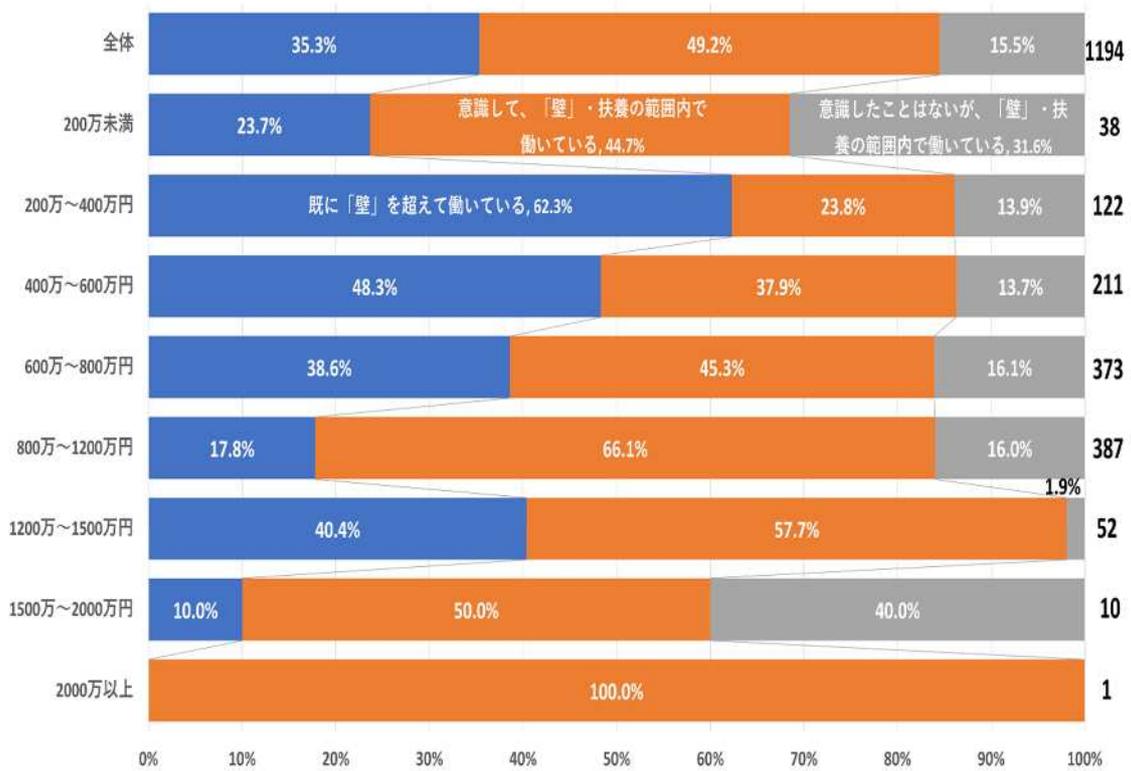
全体で見ると、不足している費用として「貯金」が最も多いという結果になった。

世帯年収別に見ると、年収800万円以下では、各層で「貯金」の割合が最も高いのに対して、800万以上では「教育費」が最も高い結果となった。

Q12：世帯の年間収入はどのくらいですか？

Q19：「年収の壁」、扶養の範囲を意識して働いていますか？

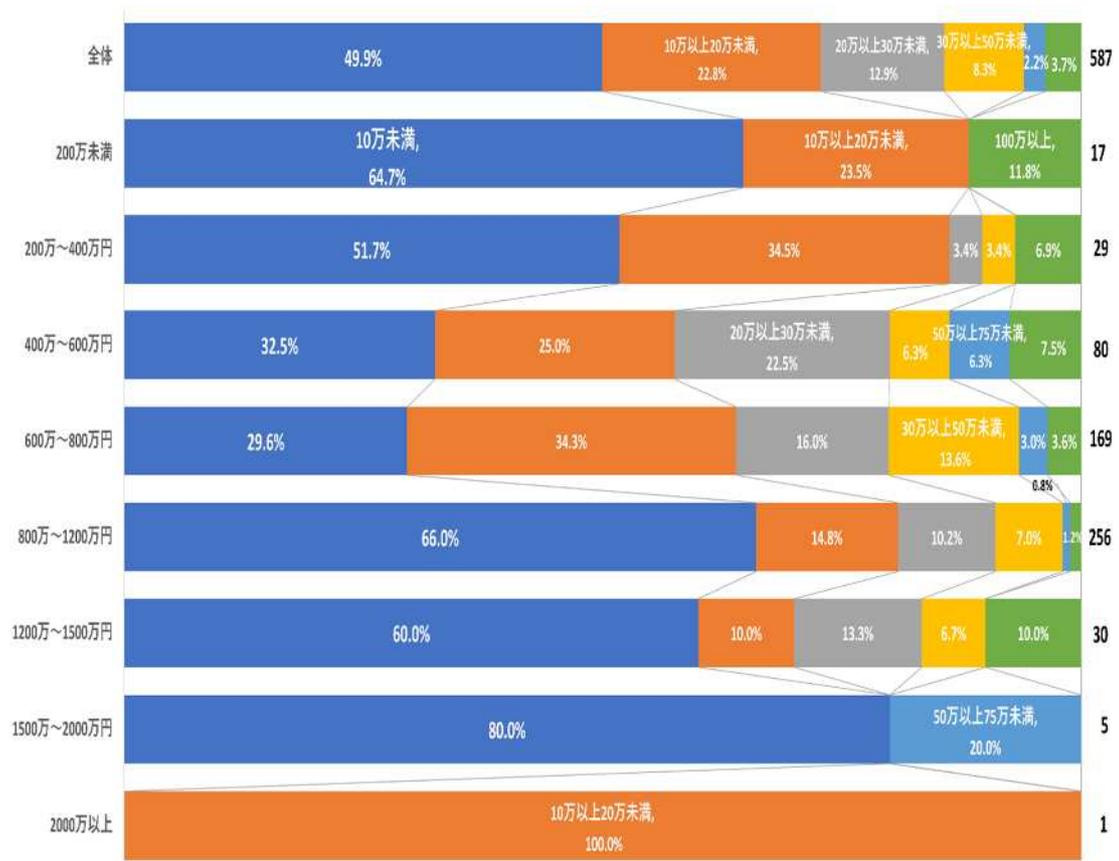
(回答数：1,194)



世帯年収別に「年収の壁」、扶養の範囲の意識を見ると、200万～600万円の間では「既に『壁』を超えて働いている」の割合が高くなっている。一方、600万円以上では「壁」・扶養の範囲で働いている人の割合のほうが高くなっている。

Q12：世帯の年間収入はどのくらいですか？

Q25：年収の壁を意識せず働くことができる環境になった場合、
年収であとどの程度働きたいですか？（回答数：587）

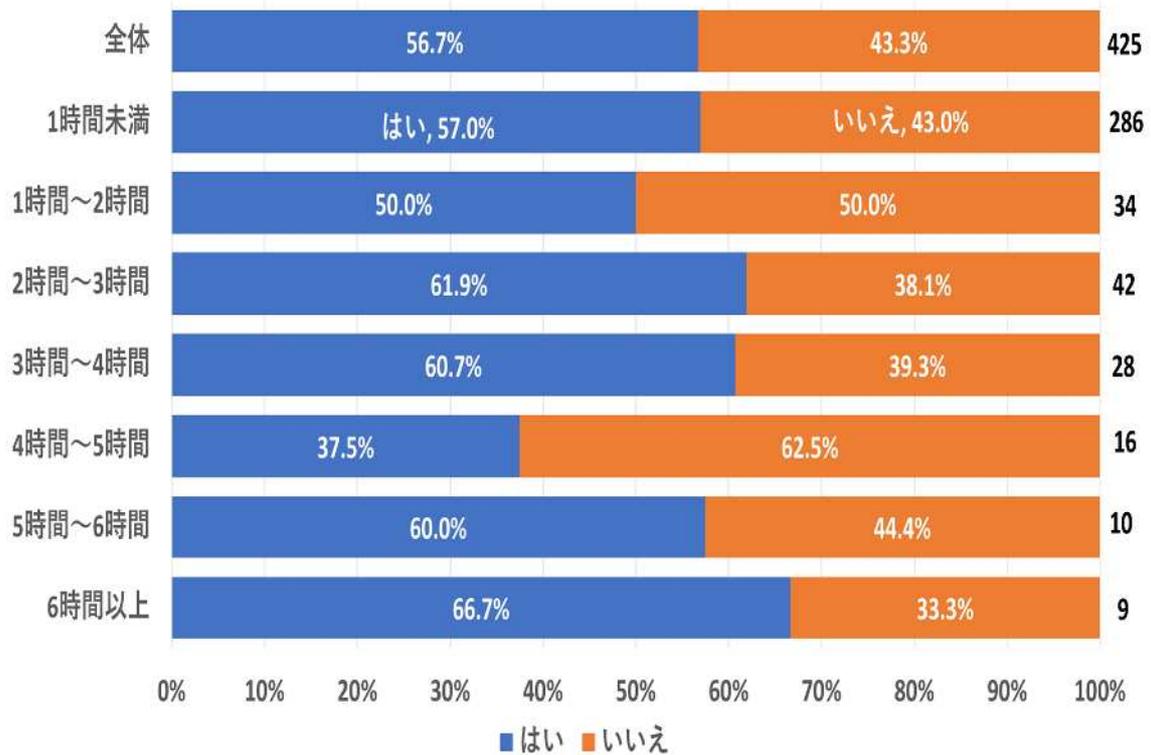


世帯年収別に追加年収の意向を見ると、追加年収として10万円以上を希望する回答が半数を超えているのは400万円～800万円の層である。

Q14：育児介護時間

Q33：正社員になれるとしたらなりたいと思いますか？

(回答数：425)



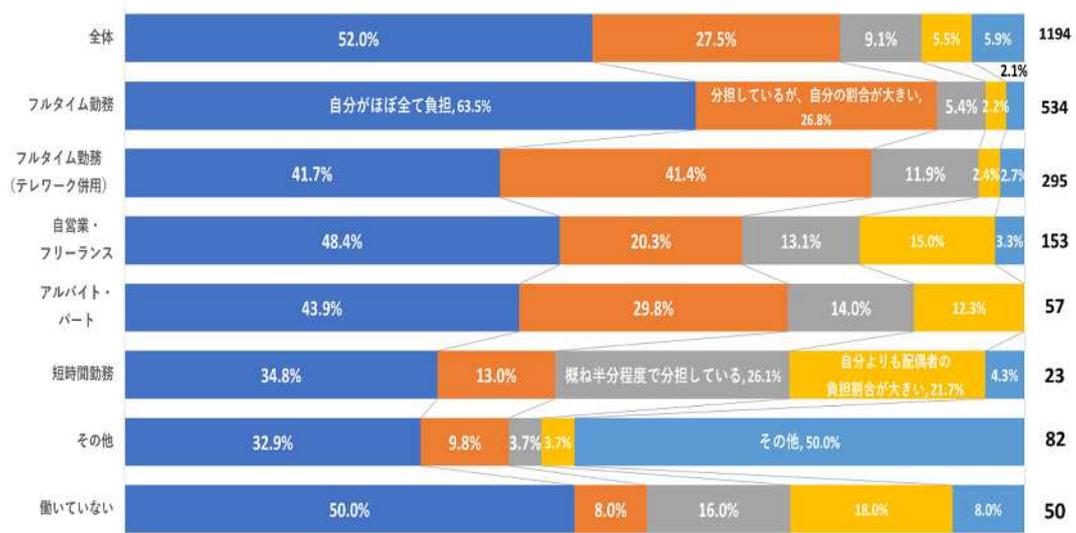
全体では、正社員になりたいと感じている割合の方が高い結果となっている。

育児介護時間別に見ても、ほとんどの時間において、正社員になりたい意向（『はい』）の割合が高い結果となった。

Q15：配偶者の働き方について当てはまるものは何ですか？

Q16：家庭内での、配偶者との家事や育児等の役割分担はどのようにしていますか？

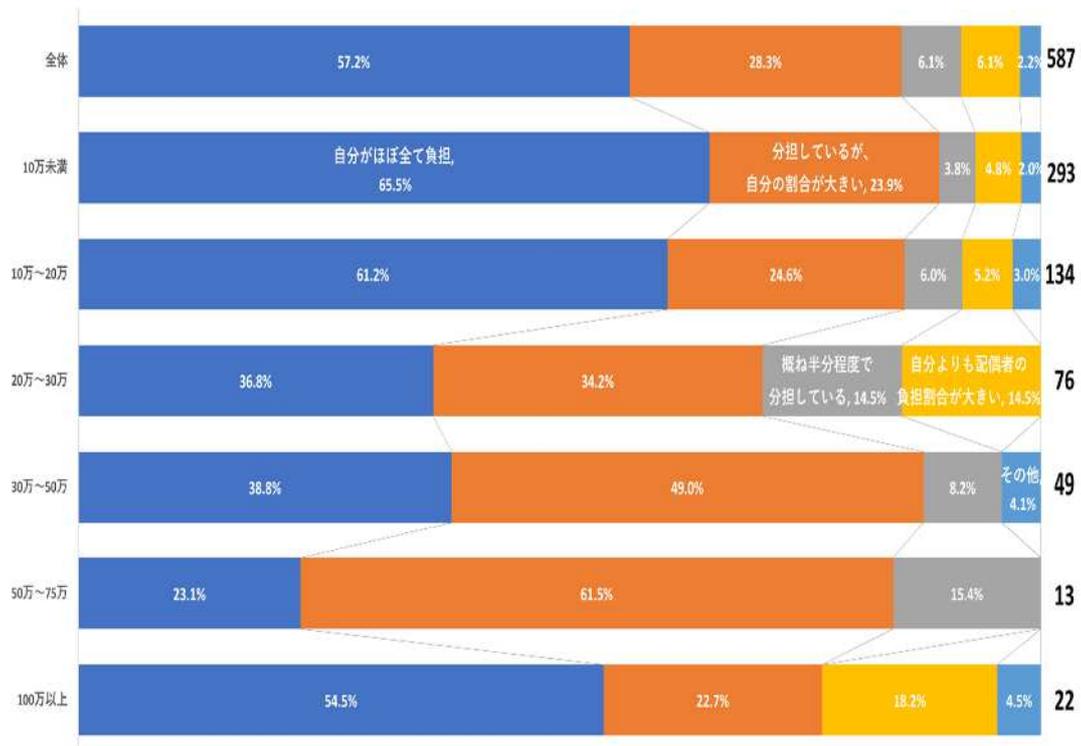
(回答数：1,194)



配偶者の働き方別に家庭内の役割分担を見ると、フルタイム勤務では「自分がほぼ全て負担」が63.5%であるのに対して、「フルタイム勤務（テレワーク併用）」や「短時間勤務」の場合は、「自分がほぼ全て負担」の割合が低くなっている。

Q16：家庭内での、配偶者との家事や育児等の役割分担はどのようにしていますか？

Q25：年収の壁を意識せず働くことができる環境になった場合、
年収であとどの程度働きたいですか？（回答数：587）

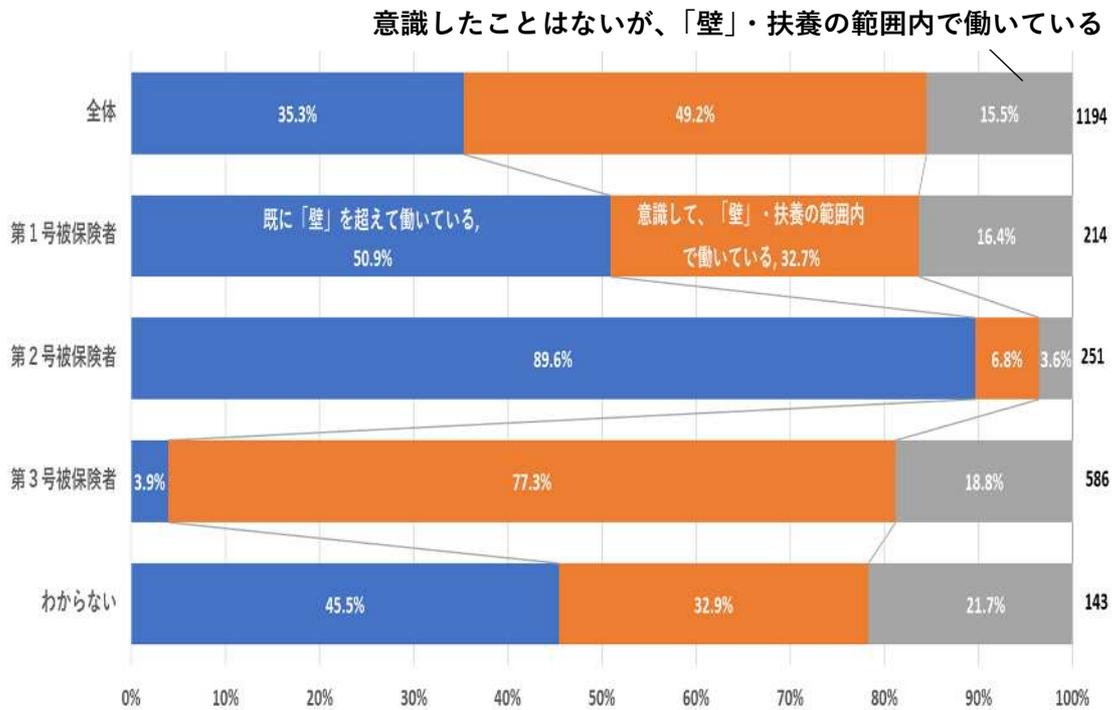


追加年収の意向別に家庭内の役割分担を見ると、金額が上がるにつれて配偶者の家事・育児等を分担している割合（『分担しているが、自分の割合が大きい』『概ね半分程度で分担している』『自分より配偶者に負担割合が大きい』合計）が高くなる傾向があった。

Q17：ご自身は、何号被保険者ですか？

Q19：「年収の壁」、扶養の範囲を意識して働いていますか？

(回答数：1,194)

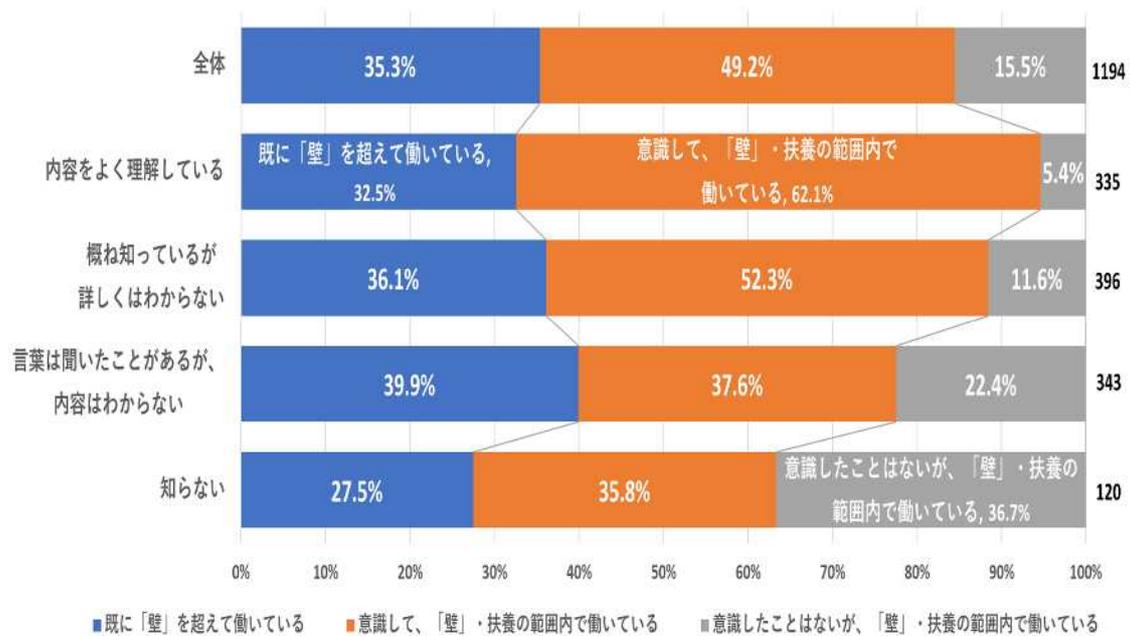


被保険者別に、「年収の壁」・扶養の範囲の意識を見ると、第3号保険者では「意識して、『壁』・不要の範囲内で働いている」が約8割を占める結果となっている。

Q18：いわゆる「年収の壁」という考え方について、どの程度知っていますか？

Q19：「年収の壁」、扶養の範囲を意識して働いていますか？

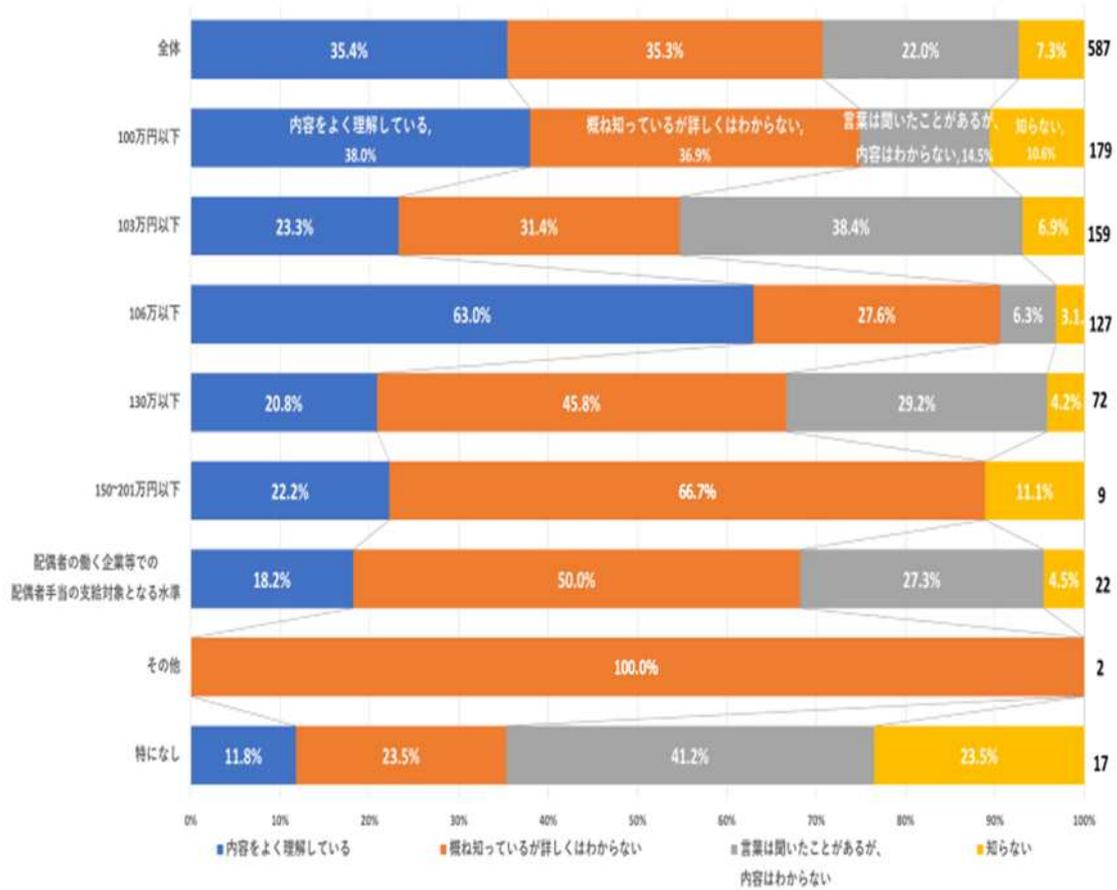
(回答数：1,194)



「壁」の認知度別に「年収の壁」・扶養の範囲の意識を見ると、「概ね知っているが詳しくはわからない」の中で、「意識して、『壁』・扶養の範囲内で働いている」が半数（52.3%）を占めている。

Q18：いわゆる「年収の壁」という考え方について、どの程度知っていますか？

Q21：年収の壁とされている事項について、どの項目を超えないように働いていますか？（特に該当するものを一つ選択）（回答数：587）



意識している「壁」別に認知度を見ると、「100万円以下」「106万円以下」では「内容をよく理解している」の割合が高くなっている。その他では「概ね知っているが詳しくはわからない」や「言葉は聞いたことがあるが、内容はわからない」の割合が高くなっている。

登録番号：(5) 4 6

令和5年度政策調査 いわゆる「年収の壁」に関する都民意識調査報告書

令和6年3月発行

編集・発行 東京都産業労働局総務部企画調整課

東京都新宿区西新宿2-8-1

03(5320)4607

受託者 株式会社 ナビット

東京都千代田区九段南1-5-5 九段サウスサイドスクエア8F



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

